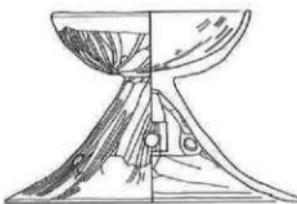


- 元総社蒼海遺跡群 (56)
- 元総社蒼海遺跡群 (61)
- 元総社蒼海遺跡群 (72)
- 元総社蒼海遺跡群 (73)

前橋都市計画事業元総社蒼海上地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海上地区 (56) 11月～24号住居跡出土

2014. 3

前橋市教育委員会



1 元總社蒼海遺跡群（61）調査区全景（西から）



2 元總社蒼海遺跡群（61）調査区全景（北西から）

口絵 2



3 元総社苔海遺跡群（61）H-4号住居跡（北から）



4 元総社苔海遺跡群（61）H-4号住居跡出土遺物

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が領をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群(56)・(61)・(72)・(73)は、上野国府推定区域や上野国分僧寺・国分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中核地域であり、多くの注目が集まっています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、縄文時代の竪穴住居跡をはじめ、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を調査しました。今回の調査成果をはじめとしてこれまでの調査成果の蓄積は、国府や国府のまちの姿を再現するための資料と考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができます。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、記録的な猛暑そして寒風の中、発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成26年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

1 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（56）・（61）・（72）・（73）の発掘調査報告書である。

2 調査主体は、前橋市教育委員会管理部文化財保護課である。

3 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所 群馬県前橋市元総社町1614番地1 ほか

発掘調査期間 平成25年7月10日～平成25年12月10日

整理・報告書作成期間 平成25年12月11日～平成26年3月7日

発掘・整理担当者 藤坂和延

4 本書の原稿執筆・編集は藤坂が行った。

5 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

神山早苗・佐藤範詳・関根その子・高橋民雄・武井洋子・中澤光江・中林美智子・奈良精一・平林しのぶ・町田保則・茂木昭弘・山川明男

6 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1 挿図中に使用した北は、座標北である。

2 握図に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮・長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:2,500前橋市現形図を使用した。

3 遺跡の略称は、25A130-155・25A130-160・25A130-171・25A130-172である。

4 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 C…方形周溝墓 T…堅穴状遺構 W…溝跡 A…道路状遺構
D…土坑 P…ピット・貯蔵穴 X…性格不明遺構 O…風倒木跡

5 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構 全体図…1/200・住居跡・堅穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60 電・炉平・断面図…1/30

遺物 土器・鉄製品…1/3、1/4 石器・石製品・土製品…1/1、1/3 鉄器・鉄製品…1/2

瓦…1/6

6 計測値については、()は現存値、[]は復元値を表す。

7 セクション注記と遺物観察表の色調については、新版標準土色帳（小山・竹原 1967）を基準とした。

8 遺構平面図の-----は推定線を表す。

9 スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図 焼土… 粘土…

遺構断面図 構築面…

遺物実測図 須恵器断面… 灰釉陶器断面… 灰釉陶器表面…

縁釉陶器断面… 内黒… 粘土、たたき…

いぶし焼成… 煤、炭化物付着… 石；煤、被熱痕…

10 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年)

Hr-FP (榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名二ッ岳洗川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半)

目 次

はじめに

例言・凡例

目次・図版目次・挿図目次・表目次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	
1	遺跡の立地	1
2	歴史的環境	1
III	調査の方針と経過	
1	調査方針	7
2	調査経過及び概要	7
IV	元總社蒼海遺跡群 (56)・(61)	
1	調査区の概要	13
2	基本層序	13
3	縄文時代の出土遺物	13
4	弥生時代の出土遺物	14
5	古墳時代～平安時代の遺構と遺物	14
(1)	竪穴住居跡	14
(2)	方形周溝墓	18
(3)	溝跡・竪穴状遺構・土坑・ピット	18
6	中世の遺構と遺物	20
V	元總社蒼海遺跡群 (72)	
1	調査区の概要	49
2	基本層序	49
3	遺構と遺物	49
(1)	竪穴住居跡	49
(2)	溝 跡	49
VI	元總社蒼海遺跡群 (73)	
1	調査区の概要	55
2	基本層序	55
3	遺構と遺物	55

写真図版

抄 錄

奥 付

図 版

- 口絵1 元総社蒼海遺跡群 (61) 調査区全景 (西から)
 2 元総社蒼海遺跡群 (61) 調査区全景 (北西から)
 3 元総社蒼海遺跡群 (61) H-4号住居跡(北から)
 4 元総社蒼海遺跡群 (61) H-4号住居跡出土遺物
 PL. 1 元総社蒼海遺跡群 (61) 調査区全景
 2 元総社蒼海遺跡群 (61) II-1号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) II-2号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) II-3号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) II-4号住居跡
 3 元総社蒼海遺跡群 (61) H-4号住居跡・電
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-5号住居跡・電
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-5・7・8号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-7号住居跡・電
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-9号住居跡・電
 4 元総社蒼海遺跡群 (61) H-10号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-10号住居跡・電
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-11号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-12号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-13号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-14・15号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-16号住居跡
 5 元総社蒼海遺跡群 (61) H-18号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-19号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-20号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-21号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-21号住居跡・電
 H-21号住居跡出土
 状況
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-22号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) H-23・24号住居跡
 6 元総社蒼海遺跡群 (61) C-1号方形周溝墓
 C-1号方形周溝墓遺物
 出土状況
 元総社蒼海遺跡群 (61) W-1号溝跡
 元総社蒼海遺跡群 (61) W-2号溝跡
 7 元総社蒼海遺跡群 (61) W-2号溝跡土層堆積状況
 元総社蒼海遺跡群 (61) T-1号竪穴状造構
 元総社蒼海遺跡群 (61) T-2~4号竪穴状造構
 元総社蒼海遺跡群 (61) T-5号竪穴状造構
 元総社蒼海遺跡群 (61) T-6号竪穴状造構
 元総社蒼海遺跡群 (61) D-1号土坑
 元総社蒼海遺跡群 (61) D-2号土坑
 元総社蒼海遺跡群 (61) D-3号土坑
 8 元総社蒼海遺跡群 (61) D-5号土坑
 元総社蒼海遺跡群 (61) D-6号土坑
 元総社蒼海遺跡群 (61) I-1号井戸跡
 元総社蒼海遺跡群 (72) H-1号住居跡
 元総社蒼海遺跡群 (73) 調査区全景
 9 甌文土器・石器・弥生土器
 10 元総社蒼海遺跡群 (61) 出土遺物 (1)
 11 元総社蒼海遺跡群 (61) 出土遺物 (2)
 元総社蒼海遺跡群 (72) 出土遺物

捕 図

- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図 2
 2 周辺遺跡図 4
 3 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) (72) (73)

- 調査区位置図とグリッド設定図 8
 4 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) 基本層序 13
 5 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) 全体図 25
 H-1 25
 6 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-1 25
 7 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-2、
 H-3 26
 8 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-4 27
 9 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-5、H-7、
 H-8 28
 10 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-9、H-10、
 H-11 29
 11 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-11、
 H-12 30
 12 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-13 31
 13 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-14、
 H-15 32
 14 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-16、H-17、
 H-18 33
 15 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-19、H-20、
 H-21 34
 16 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-21、H-22
 35
 17 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-23、H-24、
 C-1 36
 18 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) W-1、
 W-2 37
 19 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) T-1~6 38
 20 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) D-1~5、
 1-1 39
 21 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) 繩文時代・
 弥生時代出土遺物 40
 22 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-1、H-3、
 H-4出土遺物 41
 23 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-7、H-9、
 H-10~13出土遺物 42
 24 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) H-14、H-15、
 H-18、H-21、H-22、C-1、W-2出土
 遺物 43
 25 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) W-2、
 I-1出土遺物 44
 26 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) T-1~2・3・
 4、I-1出土遺物 45
 27 元総社蒼海遺跡群 (72) 基本層序 49
 28 元総社蒼海遺跡群 (72) 調査区全体図 50
 29 元総社蒼海遺跡群 (72) H-1、W-1出土
 遺物 50
 30 元総社蒼海遺跡群 (72) II-1出土遺物 51
 31 元総社蒼海遺跡群 (73) 基本層序 55
 32 元総社蒼海遺跡群 (73) 調査区全体図 55

表

- Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表 5
 Tab. 2 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) 住居跡等
 一覧表 21
 Tab. 3 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) 土坑一覧表 21
 Tab. 4 元総社蒼海遺跡群 (56) (61) 古墳・奈良・
 平安時代出土遺物観察表 22
 Tab. 5 元総社蒼海遺跡群 (72) 出土土器観察表 49

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、13年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成25年7月1日付けで、前橋市長 山本龍（区画整理事業第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、7月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

遺跡名称は区画整理事業名を採用し、過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するための数字を付し、それぞれ「元総社蒼海遺跡群（56）」（遺跡コード：25A155）・「元総社蒼海遺跡群（61）」（遺跡コード：25A160）・「元総社蒼海遺跡群（72）」（遺跡コード：25A171）・「元総社蒼海遺跡群（73）」（遺跡コード：25A172）とした。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で区切られていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は桑畠を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

繩文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

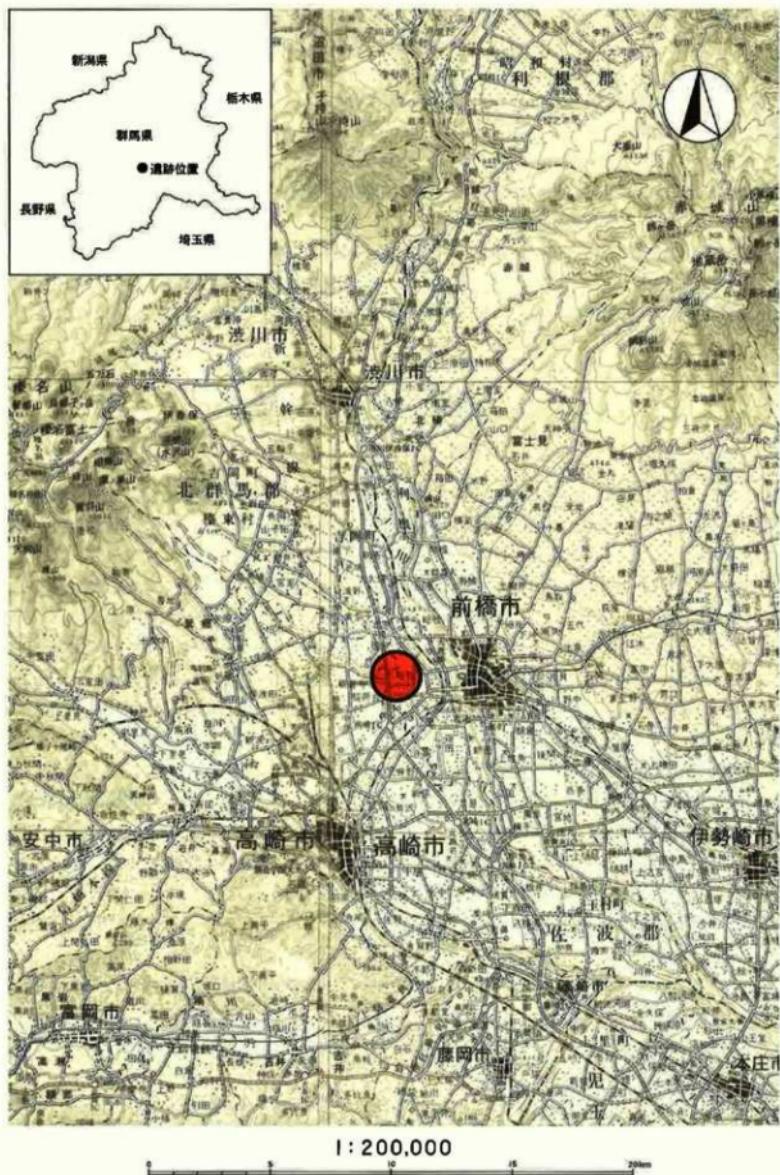


Fig. 1 元總社蓄海遺跡群位置図

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものは、前方後円墳である達見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5カ年計画で「山王庵寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。さらに平成21年度では「推定中門」と「西側南隅回廊」の周辺部が、平成22年度は北西隅の回廊と接するよう「基壇建物跡」と「北方建物都」が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的な中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き器や人形が出土した元總社寺田遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された関泉橋遺跡や元總社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円筒鏡、巡方（腰帯具）、練?陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域認定調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定口高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の築張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海土地区面積整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

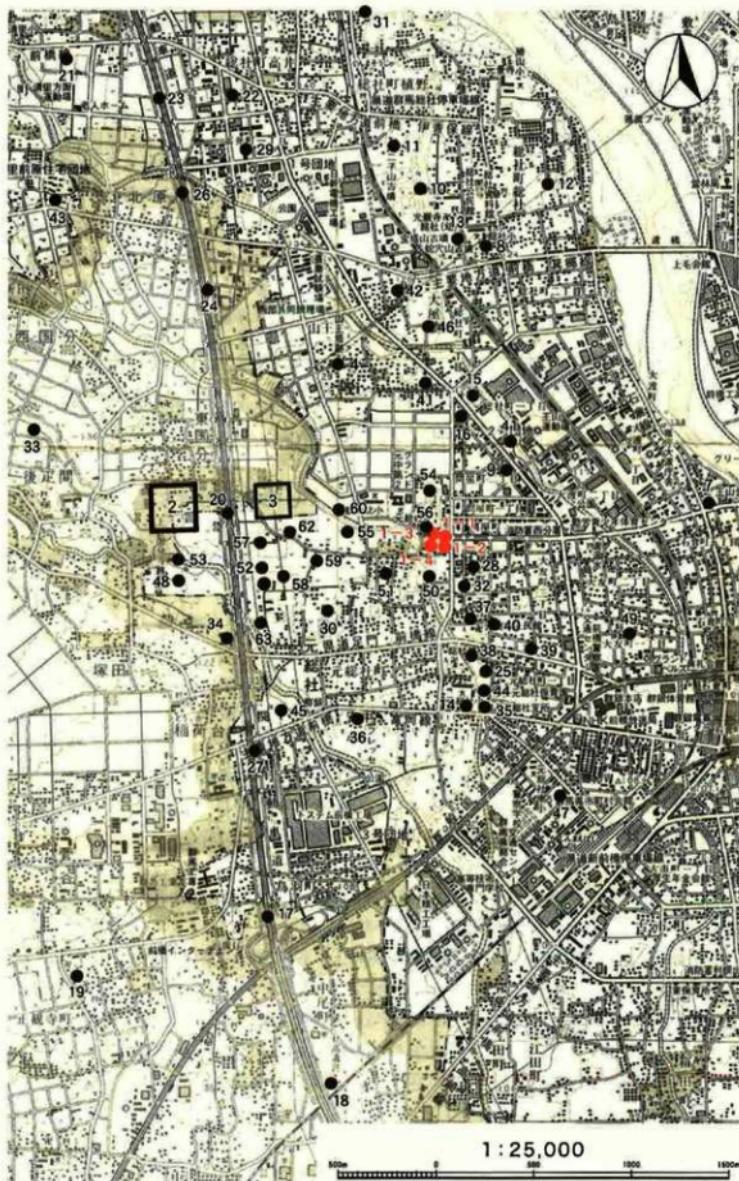


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 元總社舊道跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺跡・出土遺物
1-1	元總社舊道跡群 (56)	2013	本報告書所収遺跡
1-2	元總社舊道跡群 (61)	2013	本報告書所収遺跡
1-3	元總社舊道跡群 (72)	2013	本報告書所収遺跡
1-4	元總社舊道跡群 (73)	2013	本報告書所収遺跡
2	上野四分寺跡	1980~88	奈良・令堂墓壇・塔基壇
3	上野四分寺心寺跡	(1990)	奈良・西南隅・東南隅塗垣
4	山王庵寺跡	(1974)	奈良・塔・礎・根巻石・金堂基壇・講堂版塀・回廊礎石
7	千山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6 c 中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8 c 初）
9	福岡山古墳	1988	古墳：円墳（6 c 後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：古墳（7 c 初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6 c 末~7 c 初）
12	通見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5 c 後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7 c 末）
14	元總社小学校跡遺跡	1962	平安：擬立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	岸葉道跡東通跡	1966	縄文：住居跡
16	岸葉道跡西通跡	1969	縄文：住居跡
17	中尾道跡（事業用）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日吉通跡（事業用）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具・平安：条里制水田跡
19	日吉通跡（高崎市）	(1978)	弥生：水田跡
20	近野寺遺跡 I ~ IV (高崎市)	1979~81	弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：誤跡
21	上野四分寺跡・尼寺中間地城（事業用）	1980~83	縄文：住居跡・配石遺構・共生：住居跡・方形周溝墓・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・擬立柱建物跡・中世：擬立柱建物跡・周濠
22	寄里南御道跡群・Ⅲ	1980	縄文：ヒトツ・奈良・平安：住居跡・溝跡
23	中尾通跡	1980	奈良・平安：住居跡
24	下東内遺跡（事業用）	1980~84	彌文：周外埋甕・弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・擬立柱建物跡・椎原・中世：住居跡・中世：住居跡・溝跡
25	因分境遺跡（事業用）	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡、
26	因分境II遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
27	因分境III遺跡（西馬町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：土塁墓
28	元總社明月通跡 I ~ X 田	1982~96	古墳：住居跡・水田跡・楓跡・奈良・平安：住居跡・誤跡・中世：住居跡・溝跡
29	北原通跡（御馬町）	1982	縄文：住居跡・集石遺構・古墳：冰山跡・奈良・平安：住居跡・擬立柱建物跡
30	鳥羽通跡（事業用）	1978~83	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・擬立柱建物跡（神殿跡）
31	泉屋通跡	1983	奈良・平安：誤跡
32	軸木通跡 II 遺跡	1983, 1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
33	草作通跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡
34	板ヶ丘通跡	1984	弥生：住居跡
35	板ヶ丘通跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
36	板ヶ丘通跡 II 溝跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
37	泉屋通跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
38	後定間通跡 I ~ 田（群馬町）	1985~87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・地下水式土塁
39	坂田東通跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
40	寺山通跡	1986	平安：誤跡
41	天神通跡 II 遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
42	裏敷道跡	1986	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：畠跡
43	高野各通跡	1988	縄文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
44	元總社守田通跡 I ~ 田（事業用）	1988~91	古墳：水田跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
45	伊勢武跡・日遺跡	1988, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡
46	人形歌跡 I ~ VI	1992~2000	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：擬立柱建物跡・地下水式土坑・溝跡
47	元總社御皇通跡	1993	縄文：十坑・平安：住居跡・瓦跡
48	上野四分寺歩道遺跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
49	大友牛跡通跡	1998	平安：水田跡
50	總社泉屋明神北道跡	1999	古墳：島跡・水田跡・溝跡・中世：溝跡
	總社泉屋明神北II道跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・平安：住居跡・溝跡
	總社泉屋明神北V道跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡
	元總社舊道跡群 (7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元總社舊道跡群 (9)・(10)	2006	縄文：擬立柱跡・古墳：笠六住居跡・奈良・平安：笠穴住居跡・擬立柱建物跡・病跡・中世：溝跡
51	元總社守田道跡 I ~ 23 ドレンチ	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・擬立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状況構・中世：溝跡・近世：住居跡
52	元總社小見沢跡	2000	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・擬立柱建物跡・溝・道路状況構
53	元總社西川遺跡（事業用）	2000	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社牛宿原大塚内通跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：畠跡・収穫：誤跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
54	總社平舖荷造大須西II遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、溝跡、近世：溝跡
55	元總社小見内II遺跡	2001	古墳：住居跡、溝跡、奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元總社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：井戸跡
56	元總社善通寺跡群(12)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
	總社平舖荷造大須西IV遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、溝跡、溝跡
	元總社小見II遺跡	2002	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、中世：溝跡、道路状遺構
	元總社小見IV遺跡	2003	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
57	元總社小見V遺跡	2003	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元總社小見VI遺跡	2004	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元總社善通寺跡群(4)	2005	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元總社小見III遺跡	2002	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、道路状遺構
	元總社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元總社小見IV遺跡	2002	奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、中世：土壤基
	元總社小見VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：豎穴式液槽
59	元總社小見IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元總社小見X遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、上戸跡、土手深掘坑、中世：溝跡、土壤基
	元總社善通寺跡群(2)	2005	奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、土壤基
	元總社善通寺跡群(6)	2005	奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、土壤基
	元總社善通寺跡群(11)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元總社北川遺跡(事業団)	2002~04	古墳：水田跡、溝跡、奈良・平安：住居跡、魚塚、中世：掘立柱建物跡、水田跡、火葬墓
61	御荷原遺東遺跡(事業団)	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、溝跡、電線桿材探査底、井戸跡
62	元總社小見IVIII遺跡	2003	元總社善通寺跡群(1)
	元總社善通寺跡群(1)	2005	奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、土壤基
	元總社善通寺跡群(5)	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：周溝状遺構、土壤基
63	元總社善通寺跡群(8)	2006	奈良・平安：住居跡
-	元總社善通寺跡群(3)・元總社小見II遺跡	2005	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
-	元總社善通寺跡群(13)	2008	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、工房跡、溝跡、中世：溝跡、土壤基
-	元總社善通寺跡群(14)	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、中世：溝跡、豎穴状遺構、井戸跡
-	元總社善通寺跡群(15)	2008	奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡
-	元總社善通寺跡群(16)	2008	奈良・平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡
-	元總社善通寺跡群(17)	2008	土地：住居跡、奈良・平安：住居跡、豎穴状遺構、中世以降：土壤基、井戸跡、不明：住居跡、溝跡
-	元總社善通寺跡群(18)	2008	平安：住居跡
-	元總社善通寺跡群(19)	2008	古墳：小区画面水田跡、中世：井戸跡
-	元總社善通寺跡群(20)	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、豎穴状遺構、溝跡、中世：土壤基、溝跡
-	元總社善通寺跡群(21)	2009	中世：善通寺の跡跡、盛土状遺構
-	元總社善通寺跡群(22)	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
-	元總社善通寺跡群(23)	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、豎穴状遺構、中世以降：土壤基、井戸跡、不明：住居跡、溝跡
-	元總社善通寺跡群(24)	2009	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、豎穴状遺構、中世：方形窓穴、井戸跡
-	元總社善通寺跡群(25)	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南北＝元時代の青白磁陶器2個体
-	元總社善通寺跡群(27)	2009	奈良・平安：住居跡、中世：善通寺の跡跡
-	元總社善通寺跡群(28)	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡
-	元總社善通寺跡群(29)	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：善通寺の跡跡
-	元總社善通寺跡群(30)	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：溝跡、土壤基
-	元總社善通寺跡群(31)	2010	古墳：住居跡、中世：善通寺の跡跡
-	元總社善通寺跡群(34)	2010	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡、土壤基、土坑
-	元總社善通寺跡群(35)	2010	掘文：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：善通寺の跡跡
-	元總社善通寺跡群(36)	2010	古墳：島塚、平安：住居跡、水田跡、中世：上戸跡、善通寺の跡跡
-	元總社善通寺跡群(37)	2011	古墳：住居跡、平安：溝跡、中世：上戸、ピット、豎穴状遺構
-	元總社善通寺跡群(38)	2011	古墳：奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
-	元總社善通寺跡群(39)	2012	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡、土坑、中世：井戸
-	元總社善通寺跡群(40)	2012	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、鍛冶工房跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡、井戸
-	元總社善通寺跡群(41)	2012	掘文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、鍛冶工房跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡、井戸
-	元總社善通寺跡群(43)	2012	奈良・平安：住居跡、溝跡
-	元總社善通寺跡群(44)	2012	奈良：住居跡、溝跡、中世：溝跡、上戸跡、井戸
-	元總社善通寺跡群(45)	2012	古墳：住居跡、溝跡、根跡、中近世：土坑墓、井戸
-	元總社善通寺跡群(46)	2012	平安：住居跡、中世：井戸
-	元總社善通寺跡群(47)	2012	中近世：石列跡、溝跡、井戸跡
-	元總社善通寺跡群(49)	2012	平安：住居跡、中世：井戸、土坑
-	元總社善通寺跡群(50)	2012	掘文：住居跡、古墳～奈良・平安：住居跡

* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を示す。

* 遺跡名の欄の（事業団）は（公益財團法人）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路建設予定地が主たる調査地であるため、幅6mほどの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。本報告書で報告する遺跡の総調査面積は1,760m²である。

遺構番号は、遺跡ごとに付番することとし、(61) H-1号住居跡、(72) H-1号住居跡のように遺構の前に必ず遺跡名に付した数字を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X=+44000・Y=-72200を基点（X 0・Y 0）とする4mピッチのものを使用し、蒼海遺跡群(61)においては、西から東へX36、37、38…、北から南へY138、139、140…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

ちなみに、この蒼海遺跡群(61)のX277・Y104の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = +43,584.000	Y = 71,092.000
緯度	36°25'13"	経度 139°02'14"
真北方向角	+ 0°28'35"	縮尺係数 0.99996384

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真での行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遺り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過及び概要

現地調査は平成25年7月1日から12月10日まで行った。

本年度実施した調査地は12ヶ所で、それぞれ「元総社蒼海遺跡群(51)」(遺跡コード: 25A130-149)・「元総社蒼海遺跡群(52)」(遺跡コード: 25A130-150)・「元総社蒼海遺跡群(53)」(遺跡コード: 25A130-151)・「元総社蒼海遺跡群(54)」(遺跡コード: 25A130-153)・「元総社蒼海遺跡群(55)」(遺跡コード: 25A130-154)・「元総社蒼海遺跡群(56)」(遺跡コード: 25A130-151)・「元総社蒼海遺跡群(61)」(遺跡コード: 25A130-160)・「元総社蒼海遺跡群(66)」(遺跡コード: 25A130-165)・「元総社蒼海遺跡群(67)」(遺跡コード: 25A130-166)・「元総社蒼海遺跡群(68)」(遺跡コード: 25A130-167)・「元総社蒼海遺跡群(72)」(遺跡コード: 25A130-171)・「元総社蒼海遺跡群(73)」(遺跡コード: 25A130-172)とした。(以後「元総社蒼海遺跡群」を省略して付された数字のみで表記する)

調査班は2班で構成し、1班は(51)・(52)・(53)・(54)・(55)・(56)・(66)・(67)・(68)の9遺跡を調査。
2班は(61)・(72)・(73)の3遺跡を調査した。

なお、(56)および(61)は工事の兼ね合いから調査が2時期に分かれたところから、遺構番号もそれぞれの連番で付した。そのため同一遺構が別の遺構番号で調査されることとなった。報告書作成にあたり、混乱を避ける意味合いから、(61)の遺構番号を統一した。(遺物への注記はそれぞれの遺構番号で実施した。)

以下その対照表を記す。

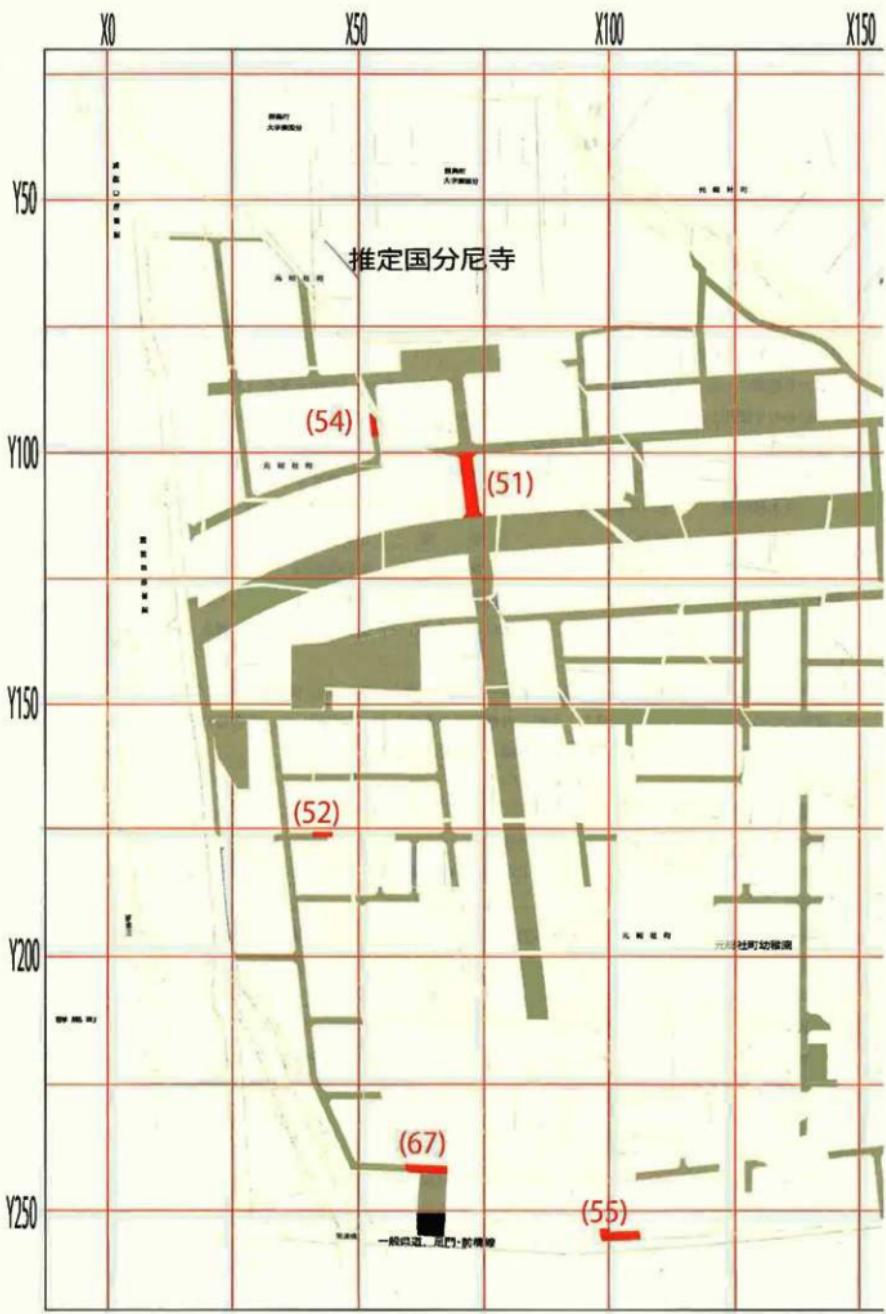


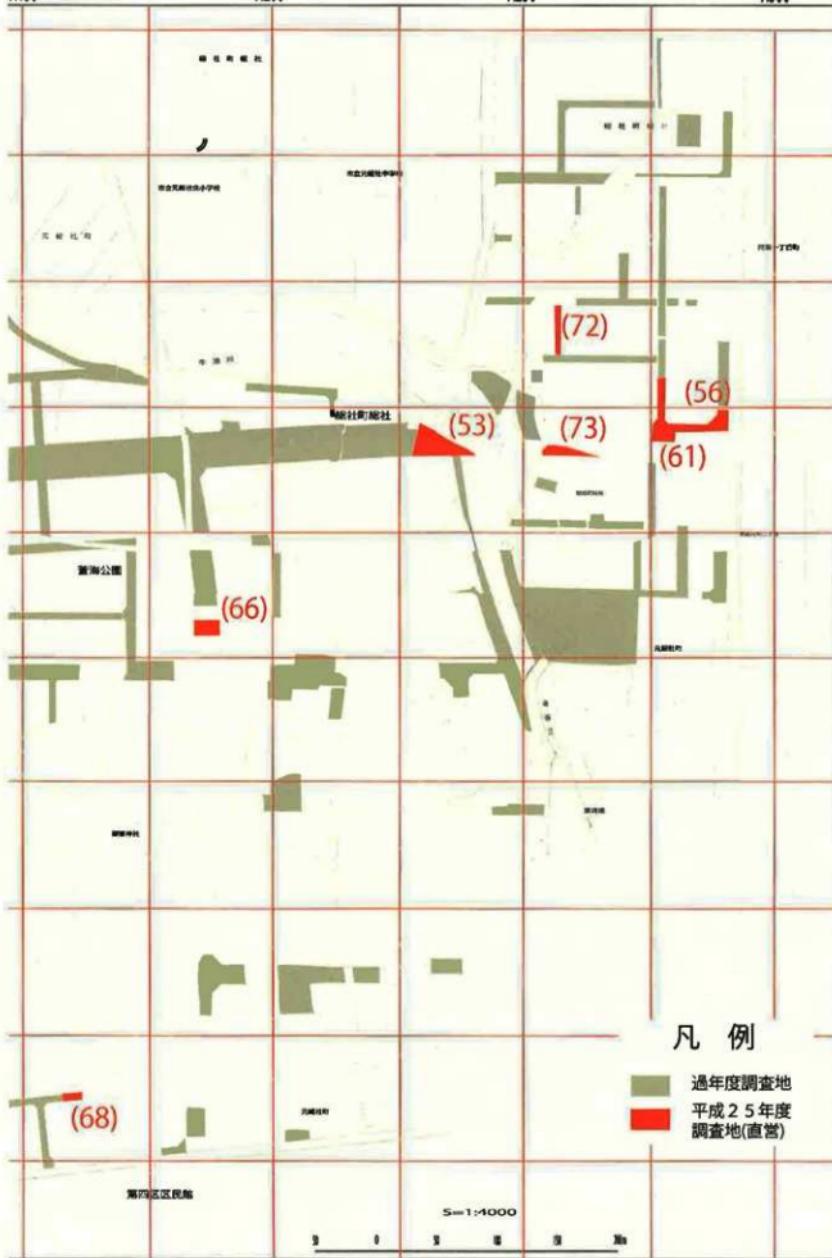
Fig. 3 元總社舊跡遺跡群 (56) (61) (72) (73)

X150

X200

x250

x300



調査区位置図とグリッド設定図

(56) H-1 H-2 H-3

(61) H-11 H-17 H-12

また、(61) の竪穴住居跡は、H-6 が欠番となった。

蒼海遺跡群（56）は蒼海遺跡群の北東部あたり、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡が 3 軒検出された。

蒼海遺跡群（61）は蒼海遺跡群（56）の南に近接する。遺構の密度は高く、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡 22 軒と、竪穴状遺構 6 基、土坑 5 基、溝跡 2 条、中世末の土壙墓 1 基、中世の井戸跡 1 基であった。

蒼海遺跡群（72）は蒼海遺跡群の北東部で、平安時代の竪穴住居跡が 1 軒、溝 1 条が検出された。

蒼海遺跡群（73）は蒼海遺跡群の北東部で、時期不明の道状遺構 1 条と、近年まで使用していたと推定できる井戸 1 基であった。

それぞれの、遺跡において、遺構精査後、記録図面の作成・記録写真の撮影を実施し、埋め戻し等を行い調査を終了した。

12月16日に現場事務所の撤収・機材等の撤収作業を実施し、文化財保護課庁舎に戻った。出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成にあたり、本報告書の発行をもってすべての作業を終了した。

IV 元総社蒼海遺跡群 (56) • (61)

1 調査区の概要

本報告書において報告する4つの調査区のうち最大の調査区で、調査面積は蒼海遺跡群(56)(61)を合わせて631m²を図る。蒼海遺跡群の北東部、元總社公民館の北北東約160mに位置する。蒼海遺跡群(56)の北は平成23年度調査の蒼海遺跡群(38)15区が近接する。調査区の西方で東流する牛池川が大きく流路を南方に変える。その扇形部から東方約160m、標高は118m前後である。検出された遺構は古墳時代から奈良・平安時代にかけての堅穴住居23軒、堅穴状遺構6基、方形周溝墓1基、溝跡2条、土坑5基が検出されたほか、中世末から近世初期に比定できる土壙墓1基等がある。出土した遺物は遺構に伴って上飾器・須恵器等が出土したほか、縄文土器・石器・弥生式土器破片の出土があった。

特筆される遺構としては、5世紀の方形周溝墓があげられる。

2 基本層序

- I層 黒褐色土 現耕作土。砂質土。
- II層 黒褐色土 粒度の大きい砂質土。As C, Hr FPを混入。
- III層 黒褐色土 II層より漸移的に変化する。砂の粒度は細かくなる。混入する As C, Hr FP は少なくなり、總社砂層起因の砂質土のブロックが混入し始める。
- IV層 暗褐色土 III層より漸移的に変化する。砂の粒度はさらに細かくなる。混入する As-C さらに少なくなる。
- V層 暗褐色土 總社砂層を起因とする。砂質土層。

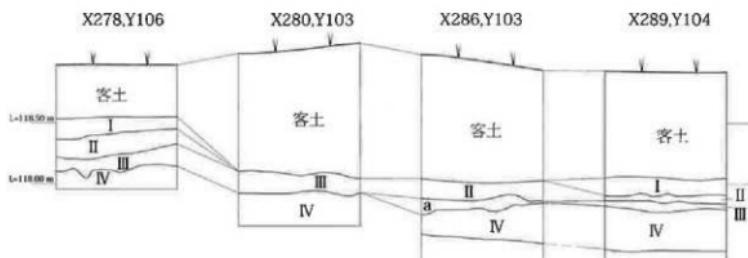


Fig. 4 元總社蒼海遺跡群(56)(61) 基本層序

3 縄文時代の出土遺物

縄文時代は遺構の検出はないものの、当該期の遺物が出土している。

J 1～J 3は前期中葉・諸葛式土器の破片で、J 1は細かいRL縄文を斜位に施す。J 2は斜位の刻みを施す浮線を横位に施す肩部破片。J 3は大きく外反する口縁部破片で、平行沈線を横位に施す。頸部には、半裁竹管で連続して刺突する隆帯を横位に施す。J 4からJ 8は中期前葉の土器片で、J 4はRL縄文を施された口縁部破片。J 5はLR縄文を施された浅鉢土器の破片。J 6も浅鉢土器の口縁部破片で、口唇部下位には沈線を横位に一束繰りさせる。J 7は隆帯を沈線により区画し、その下位には鋸い沈線で三角形の区画を施す。J 8は口縁部破片で肥厚する口縁部の下に沈線を横位に施し、竹管による連続刺突で逆「ハ」の字状の矢羽文様を施す。J 9～J 14はいずれも中期後葉・加曾利E式期の土器破片で、J 9は沈線による横位区画内をRL縄文で充填する。J 10は

胸部破片で、垂下する蛇行沈線と LR 繩文を施す。J 11は RL 繩文を斜位に施す胸部破片。J 12は口縁部文様帶の破片で、脇帯区画内を縦位の沈線で充填する。J 13は垂下する平行沈線と RL 繩文を施された胸部下位の破片。J 14は緩い円弧を描き垂下する沈線内を LR 繩文で充填する、胸部下位の破片。

当該期の石器は、打製石斧 1点4、石鏃1点が出土している。J 15は短冊形の打製石斧で、刃部は欠損している。残存長7.3cm、最大幅4.4cm、厚さ1.4cm、重量は74gである。J 16は凹基無茎の石鏃で、長2.1cm、幅1.3cm、厚さ0.2cm、重量0.5gである。

4 弥生時代の出土遺物

弥生時代も遺構の検出はないものの、当該期の壺型土器の破片が出土している。概ね、中期後半の土器の様相を呈する。

Y 1・Y 2 はいずれも頸部から短く外反する壺型土器の口縁部の破片で、櫛齒状工具による平行沈線を横位に施し、そこから櫛齒状工具で平行沈線を垂下させる。Y 3 は壺型土器の頸部およびそこから外反する口縁部にかけての破片で、頸部には2本の沈線で横位の区画を作出し、その区画内は細い沈線による方形の区画文を描く。下部には LR の細かい繩文を施す。補修孔が認められる。Y 4 は壺型土器の大きく外反する口縁部の破片で口唇部には LR 繩文を施す。補修孔も認められる。Y 5 は壺型土器の頸部破片で、下位はやや肥厚して櫛齒状工具による平行沈線を斜位の格子状に施す。Y 6 は壺型土器の頸部から胴部にかけての破片で、2条の沈線により横位の区画を作出し、区画内には LR 繩文を施す。Y 7 は壺型土器の胴部破片で、櫛齒状工具による平行沈線を斜位の格子状に施す。Y 8・Y 9 は壺型土器の胸部上位から頸部にかかる部位の破片で櫛齒状工具による撇状文を横位に施し、その下位には三角形の区画を描く。Y 10 は口縁部下位から胸部中位にかけての破片で、頸部には2条の沈線による横位の区画作出し、区画内はやや肥厚して LR 繩文で充填する。胸部は櫛齒状の工具でナデ調整後ミガキを施す。

5 古墳時代～平安時代の遺構と遺物

(1) 壓穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 6、PL. 2)

位置 X275・276、Y104グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 圓丸方形 東西(0.62)m、南北(1.680)m
壁現高 2cm 面積 (4.86)m² 床面 窓及びその前面のみの検出であるため、床面の詳細な状況はわからない。
竈 東壁の南寄り 主軸方向 N-87°-E 全長71cm、最大幅60cm 壁周溝 未検出 重複 H-2と重複し、
本住居跡が新しい。 出土遺物 櫛櫛形・高台枕、土師器・甌 時期 出土遺物から10世紀

H-2号住居跡 (Fig. 7、PL. 2)

位置 X275・276、Y103～105グリッド 主軸方向 N 65° E 形状等 圓丸方形 東西(3.96)m、南北3.9m
壁現高23.0cm 面積 (9.67)m² 床面 窓・炉 未検出。 壁周溝 未検出 ピット P.I 長軸34cm、短軸34cm、深さ10.5cm 重複 H-1と重複し、本住居跡が古い。 出土遺物 なし 時期 覆土の状況から5世紀台

H-3号住居跡 (Fig. 7、PL. 2)

位置 X276・277、Y105・106グリッド 主軸方向 N-105°-E 形状等 圓丸方形 東西2.80m、南北3.72m
壁現高26cm 面積 [10.48m²] 床面 ほぼ平坦で、カマド前面に硬化面が確認できた。 窓 東壁中央南寄り
壁周溝 未検出 ピット P.I 長軸22cm、短軸20cm、深さ17.5cm 重複 なし 出土遺物 櫛櫛形・高台枕・甌
等 時期 出土遺物から10世紀後半

H-4号住居跡 (Fig. 8、PL. 2・3)

位置 X276~278、Y104・105グリッド 主軸方向 N 55° E 形状等 東西に長いやや歪んだ隅丸長方形 東西4.5m、南北3.4m、壁現高49.5cm 面積 [13.85m²] 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 南東隅 主軸方向 N-94°-E 全長110cm、最大幅115cm、煙道部長45cm、煙道部幅23cm、燃焼部・焚口長84cm、焚口部幅53cm 壁周溝 未検出 ピット P 1 長軸32cm、短軸28cm、深さ35.5cm 重複なし 出土遺物 土師器・壺・甕・瓶、須恵器 時期 出土遺物から5世紀第4四半期 備考 焼失住居

H-5号住居跡 (Fig. 9、PL. 3)

位置 X277・278、Y105・106グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 届丸長方形 東西3.78m 南北3.90m 壁現高39.0cm 面積 [14.37m²] 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 東壁中央やや南寄り 主軸方向 N-77°-E 全長115cm、最大幅78cm、煙道部54長cm、煙道部幅39cm、燃焼部・焚口長61cm 壁周溝 未検出 重複 H 7、H 8、T 1と重複し、H 7より古く、T 1より新しい。H 8とは直接の重複箇所がないために不明。出土遺物 土師器片 時期 出土遺物および重複関係から6～7世紀

H-6号住居跡 (欠番)

H-7号住居跡 (Fig. 9、PL. 3)

位置 X277・278、Y105・106グリッド 主軸方向 N-102° E 形状等 南北方向に長い隅丸長方形 東西3.86m、南北(4.36)m、壁現高51.0cm 面積 [14.35m²] 床面 硬質な総社砂層を掘り込み床面を構築。ほぼ平坦である。竈 東壁中央南寄り 主軸方向 N-108°-E 全長95cm、最大幅78cm ピット P 1 長軸34cm、短軸32cm、深さ27.5cm P 2 長軸28cm、短軸20cm、深さ21cm P 3 長軸30cm、短軸27cm、深さ24.0cm P 4 長軸52cm、短軸47cm、深さ32cm 壁周溝 未検出 重複 H-5、H-8、T-1と 重複 いずれよりも新しい。出土遺物 植體整形・高台碗・壺 時期 山上遺物から9世紀後半

H-8号住居跡 (Fig. 9、PL. 3)

位置 X278、Y106グリッド 主軸方向 N 80°-E 形状等 隅丸長方形 東西(1.28)m、南北(2.9)m、壁現高23.0cm 面積 [1.15m²] 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 未検出 壁周溝 未検出 重複 H 7と重複し、H 7より古い。出土遺物 なし 時期 重複関係から8世紀代

H-9号住居跡 (Fig.10、PL. 3)

位置 X278、Y103グリッド 竈 東壁(カマドのみの検出であるため壁の位置関係不明) 主軸方向 N-95°-E 全長82cm、最大幅44cm、焚口部幅30cm 壁周溝 なし 出土遺物 瓦 時期 出土遺物から10世紀以降

H-10号住居跡 (Fig.10、PL. 4)

位置 X276、277、Y101・102グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 隅丸方形 東西(1.0)m、南北3.0m、壁現高16.5cm 面積 (2.44)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 東壁中央南寄り 全長108cm、最大幅72cm、煙道部長57cm、煙道部幅31cm、燃焼部・焚口長51cm、焚口部幅52cm 壁周溝 未検出 重複 C-1と重複し、C-1より新しい。出土遺物 植體整形・壺 時期 出土遺物から11世紀

H-11号住居跡（蒼海遺跡群（56）H-1）(Fig.10・11、PL.4)

位置 X288・289、Y100～102グリッド 主軸方向 N 68° E 形状等 南北にやや長い隅丸方形 東西4.44m、南北4.70m、壁現高37cm 面積 (17.52)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窯 東壁中央やや南寄り 主軸方向 N-72°-E 全長108cm、最大幅88cm、煙道部長18cm、煙道部幅20cm、燃焼部・焚口長90cm、焚口部幅20cm、燃焼部幅33cm ピット P1 長軸52cm、短軸42cm、深さ10.5cm 貯藏穴 P2 長軸54cm、短軸50cm、深さ8cm 壁周溝 未検出 重複 H-12と重複し、H-12より新しい。 出土遺物 土師器・壺・高壺・台付壺、須恵器・壺 時期 出土遺物から6世紀第1四半期

H-12号住居跡（蒼海遺跡群（56）H-3）(Fig.11、PL.4)

位置 X288～290、Y100～102グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 楕円長方形 東西5.50m、南北(4.70)m 壁現高16.5cm 面積 (12.22)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窯 東壁南寄り 主軸方向 N-95°-E 全長62cm、最大幅86cm、煙道部長19cm、煙道部幅25cm、燃焼部・焚口長43cm、焚口部幅33cm 壁周溝 未検出 ピット P1 長軸42cm、短軸30cm、深さ23.5cm P2 長軸22cm、短軸20cm、深さ23.5cm P3 長軸42cm、短軸25cm、深さ21.0cm P4 長軸36cm、短軸31cm、深さ25.5cm P5 長軸42cm、短軸38cm、深さ43cm P6 長軸74cm、短軸66cm、深さ73cm 入口施設 南壁中央東より 重複 II-11と重複し、II-11より古い。 出土遺物 上師器・壺・甕 時期 山上遺物および重複関係から5世紀第4四半期 備考 南壁中央東よりに入口施設あり

H-13号住居跡 (Fig.12 PL.4)

位置 X287・288、Y101～103グリッド 主軸方向 N-77°-E 形状等 隅丸長方形 東西4.30m、南北(4.64)m 壁現高68.5cm 面積 (13.82)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窯 東壁 主軸方向 N-76°-E 全長116cm、最大幅99cm、煙道部長33cm、煙道部幅35cm、燃焼部長38cm、焚口45cm、焚口部幅39cm、燃焼部幅47cm 壁周溝 南・東・西壁 ピット P1 長軸26cm、短軸23cm、深さ22.5cm P2 長軸22cm、短軸22cm、深さ25.5cm P3 長軸24cm、短軸20cm、深さ33.5cm 貯藏穴 P4 長軸96.0cm、短軸88.0cm、深さ65.5cm 重複 H-14と重複し、H-14より新しい。 出土遺物 土師器・壺・台付甕・甕、滑石製鉢鉋車 時期 出土遺物および重複関係から6世紀第四半期

H-14号住居跡 (Fig.13、PL.4)

位置 X288・289、Y102・103グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 隅丸方形 東西4.64m、南北4.7m、壁現高47cm 面積 (17.92)m² 床面 ほぼ平坦で、中央部・主柱穴で囲まれた箇所には硬化面は確認できた。 爐・窯 未検出 壁周溝 北・東・西壁 ピット P1 長軸25cm、短軸20cm、深さ30.5cm P2 長軸40cm、短軸34cm、深さ57.0cm P3 長軸39cm、短軸32cm、深さ39.5cm P4 長軸20cm、短軸17cm、深さ44.0cm P6 長軸25cm、短軸20cm、深さ22.0cm P7 長軸25cm、短軸20cm、深さ27.5cm 貯藏穴 P5 長軸54cm、短軸45cm、深さ34cm 重複 H-13、H-15と重複し、いずれより古い。 出土遺物 土師器・壺・高壺 時期 出土遺物および重複関係から5世紀第2四半期

H-15号住居跡 (Fig.13、P.4)

位置 X289・290、Y102・103グリッド 主軸方向 N-69°-E 形状等 北壁がやや亞んだ方形 東西(4.90)m、南北4.6m、壁現高43.0cm 面積 (15.97)m² 床面 ほぼ平坦で、南部に硬化面は確認できた。 爐・窯 未検出 壁周溝 西・南壁 ピット P1 長軸30cm、短軸25cm、深さ20.5cm 重複 H-14、I-1と重複し、

H-14より新しく、I-1より古い。 出土遺物 土師器・壺 時期 出土遺物および重複関係から 6世紀代

H-16号住居跡 (Fig.14、PL.4)

位置 X288-289、Y104グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 四角形 東西3.40m、南北(1.68)m、壁現高34.5cm 面積 (4.99)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。床下土坑あり。 炉・竈未検出 壁周溝なし 重複なし 出土遺物 土師器片 時期 不明

H-17号住居跡 (蒼海遺跡群 (56) H-2) (Fig.14)

位置 X290、Y101グリッド 主軸方向 N 82° E 形状等 角丸方形 東西(0.34)m、南北(1.20)m 壁現高7.0cm 面積 (0.22)m² 床面 ほぼ平坦で、中央部から南東部にかけて硬化面あり。 竈 調査区外に存在するものと思われる。 壁周溝なし 重複なし。 出土遺物 土師器片 時期 不明

H-18号住居跡 (Fig.14、PL.5)

位置 X285~287、Y103-104グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 角丸方形 東西(6.90)m、南北(5.32)m、壁現高36cm 面積 (14.15)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 竈 北壁中央やや西寄りから東壁に作り替えしたものと思われる。(土層状況から) 主軸方向 N 16° W ピット P1 長軸38cm、短軸36cm、深さ38cm 貯藏穴 未検出 壁周溝 北・東壁 重複 H-19と重複しH-19より古い 出土遺物 上師器・壺・竈 時期 出土遺物から5世紀後半

H-19号住居跡 (Fig.15、PL.5)

位置 X285-286、Y103グリッド 主軸方向 N 93° E 形状等 角丸方形 東西2.86m、南北(1.42)m 壁現高7.5cm 面積 (3.63)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 竈 東壁 主軸方向 N-88°-E 全長140cm、最大幅32cm 壁周溝 未検出 ピット P1 長軸52cm、短軸51cm、深さ28 重複 H-18と重複し、H-18より新しい。 出土遺物 なし 時期 形状および重複関係より10世紀代

H-20号住居跡 (Fig.15、PL.5)

位置 X283-284、Y103グリッド 主軸方向 N-57°-E 形状等 角丸長方形 東西(2.16)m 南北(2.08)m 壁現高50cm 面積 (2.86)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 H-21と重複し、本住居跡が古い。 出土遺物 なし 時期 重複関係から5世紀第3四半期以前

H-21号住居跡 (Fig.15・16、PL.5)

位置 X282-283、Y103グリッド 主軸方向 N 72° E 形状等 角丸長方形 東西(6.36)m、南北(4.34)m、壁現高49cm 面積 (14.40)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 竈 東壁中央南寄り主軸方向 N-74°-E 全長135cm、最大幅(96)cm、煙道部長17cm、煙道部幅33cm、燃焼部・焚口長118cm、焚口部幅45cm、燃焼部幅50cm 貯藏穴 P1 長軸74cm、短軸58cm、深さ57cm 壁周溝 未検出。 重複 II-20と重複し、木住居跡が新しい。 出土遺物 土師器・壺・壺・竈 時期 出土遺物から6世紀第2四半期

H-22号住居跡 (Fig.16、PL.5)

位置 X279-280、Y103グリッド 主軸方向 N 65°-E 形状等 角丸方形 東西(4.76)m 南北(2.40)m 壁現高51.0cm 面積 (5.49)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 竈 未検出。 壁周

溝なし 重複なし 出土遺物 土師器・壙 時期 出土遺物から5世紀第2四半期

H-23号住居跡 (Fig.17、PL. 5)

位置 X276.277 Y96~98グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 角丸方形 東西2.36m、南北3.24m、壁現高21.0cm 面積 (7.01)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 備考 東壁中央 主軸方向 N-85°-E 全長64cm、最大幅47cm 重複 H-24と重複し、H-24より新しい。 出土遺物 土師器片 時期 重複関係から5世紀第4四半期以降

H-24号住居跡 (Fig.17、PL. 5)

位置 X39~41、Y142~144グリッド 主軸方向 N 57° E 形状等 角丸方形 東西4.24m、南北4.32m、壁現高47.5cm 面積 17.42m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 備考 南壁中央西寄り 主軸方向 N-153°-E 全長77cm、最大幅73cm 重複 H-24 b H-24 c と重複し、いずれより新しい。 出土遺物 土師器・壙 時期 出土遺物から5世紀第3四半期

(2) 方形周溝墓

C-1号方形周溝墓 (Fig.17、PL. 6)

位置 X276~277 Y100~102グリッド 主軸方向 N 62° E 形状等 角丸方形 東西(5.06)m、南北7.8m 最大上幅106cm、最大下幅66cm 壁現高57.5cm 重複 H-10、W-1と重複し、いずれより古い。 出土遺物 土師器・壙 時期 出土遺物から5世紀第2四半期

(3) 溝跡・竪穴状遺構・土坑・ピット

W-1号溝跡 (Fig.18、PL. 6)

位置 X275~277、Y100~106グリッド 形状等 最大上幅72cm 最大下幅56.0cm 深さ26.5cm 断面底部に狭い平坦面をもつU字状を呈する。 時期 不明

W-2号溝跡 (Fig.18、PL. 6・7)

位置 X276~278、Y94~95グリッド 形状等 最大上幅320cm 最大下幅280cm 深さ28.5cm 断面形箱状を呈する。 時期 出土遺物の出土状況から5世紀代 備考 覆土上層に遺物包含層がありその出土遺物は5世紀第1四半期から世紀代のものが混在する。

T-1号竪穴状遺構 (Fig.19、PL. 7)

位置 X278、Y105グリッド 主軸方向 N 80° E 形状等 圓丸方形 東西2.20m、南北2.18m、壁現高53cm 面積 [4.42m²] 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 出土遺物 土師器・壙・壺 時期 出土遺物から5世紀後半

T-2号竪穴状遺構 (Fig.19、PL. 7)

位置 X279、Y104グリッド 主軸方向 N-69°-E 形状等 圓丸方形 東西(2.1)m、南北(1.06)m、壁現高70.5cm 面積 [2.01m²] 床面 ほぼ平坦である 出土遺物 土師器・壺 時期 不明

T—3号竪穴状遺構 (Fig.19、PL. 7)

位置 X279、Y104グリッド 主軸方向 N—70°—E 形状等 暗丸方形 東西1.7m、南北(2.06)m、壁現高70.5cm 面積 [2.04m²] 床面 ほぼ平坦である 出土遺物 須恵器片、土師器片 時期 不明
出土遺物 土師器片 時期 不明

T—4号竪穴状遺構 (Fig.19、PL. 7)

位置 X279、Y104グリッド 主軸方向 N—71°—E 形状等 暗丸方形 東西(2.36)m、南北1.66m、壁現高95cm 面積 (3.12)m² 床面 ほぼ平坦である 出土遺物 土師器片 時期 不明

T—5号竪穴状遺構 (Fig.19、PL. 7)

位置 X277・278、Y101・102グリッド 主軸方向 N 67° E 形状等 暗丸方形 東西(1.80)m、南北2.14m、壁現高58.5cm 面積 (2.62)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 出土遺物 土師器片 時期 不明

T—6号竪穴状遺構 (Fig.19、PL. 7)

位置 X280・281、Y103グリッド 主軸方向 N—66°—E 形状等 暗丸方形 東西(1.80)m、南北(0.94)m、壁現高36.0cm 面積 (0.80)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 出土遺物 土師器片 時期 不明

D—1号土坑 (Fig.20、PL. 7)

位置 X276、Y106グリッド 形状等 楕円形 長軸長106cm、単軸幅98cm、深さ30.0cm 出土遺物 なし 時期 不明

D—2号土坑 (Fig.20、PL. 7)

位置 X278、Y105グリッド 形状等 円形 長軸長104cm、単軸幅100cm、深さ22cm 出土遺物 なし 時期 不明

D—3号土坑 (Fig.20、PL. 7)

位置 X276・277、Y103・104グリッド 形状等 楕円形 長軸長160cm、単軸幅154cm、深さ83.5cm 出土遺物 なし 時期 不明 備考 底面は粒度の大きい砂礫層である。製作途中で放棄された未完成の井戸か。

D—4号土坑 (Fig.20)

位置 X277・278、Y104グリッド 形状等 楕円形 長軸長65cm、単軸幅(20)cm、深さ12cm 出土遺物 なし 時期 不明

D—6号土坑 (Fig.20、PL. 8)

位置 X280、Y103グリッド 形状等 楕円形 長軸長73cm、単軸幅69cm、深さ27.5cm 出土遺物 人頭大の礫 時期 不明

6 中近世の遺構と遺物

D-5号土坑 (Fig.20、PL. 8)

位置 X284、Y103グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 楕円形 長軸長80cm、単軸幅70cm、深さ65.0cm

出土遺物 人骨・銭貨(「開元通寶」・「永楽通寶」(2枚)・「洪武通寶」・「太平通寶」・「*・元寶」・(無文鏡1枚))

時期 中世末

I-1号井戸跡 (Fig.20、PL. 8)

位置 X289・290、Y102・103グリッド 形状等 円形 長軸長2.9m 単軸幅2.7m 深さ(170)cm ロート状

に開口し、ほぼ垂直に掘り込まれる。重複 H-15と重複しH-15より新しい出土遺物 常滑焼・壺破片

時期 出土遺物からは中世以降

Tab. 2 住居跡等一覧表

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	電		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	便り高 (cm)			位 置	構築材		土器類	須恵器	その他
H-1	X275・276 Y104	(0.62)	(1.68)	2	(4.86)	N-86°-E	東壁南寄り		×	○	○	
H-2	X275・276 Y103・105	(3.96)	3.90	23	(9.57)	N-65°-E	—		×			
H-3	X276・277 Y105・106	2.8	3.72	26	[10.48]	N-105°-E	東壁南寄り 天井石・支脚あり		×	○	○	
H-4	X276・278 Y104・105	4.5	3.4	49.5	[13.85]	N-55°-E	東南角	粘土	×	○	○	
H-5	X277・278 Y105・106	3.78	3.9	39	[14.37]	N-75°-E	東壁南寄り	粘土	×			
H-7	X277・278 Y105・106	3.86	(4.36)	51	[14.35]	N-102°-E	東壁南寄り		×	○	○	
H-8	X278 Y106	(1.28)	(2.9)	23	[1.15]	N-80°-E	—		×			
H-9	X278 Y103	不明	不明	不明	N-95°-E	東壁支脚あり			×	○		瓦
H-10	X276・277 Y101・102	(1.0)	3.0	16.5	(2.44)	N-98°-E	東壁南寄り 右袖石・支脚あり		×		○	
H-11	X288・289 Y100・102	4.44	4.7	37	(17.52)	N-68°-E	—		×			
H-12	X288・290 Y100・102	5.5	(4.7)	16.5	(12.22)	N-67°-E	東壁南寄り 両袖石あり		×			
H-13	X287・288 Y101～103	4.3	(4.64)	68.5	(13.82)	N-77°-E	東壁南寄り 両袖石あり支撑あり		○			
H-14	X288・289 Y102・103	4.64	4.7	47	[17.92]	N-75°-E	—		○			
H-15	X289・290 Y102・103	(4.9)	4.6	43	(15.97)	N-69°-E	—		○			
H-16	X288・289 Y104	3.4	(1.68)	34.5	(4.99)	N-86°-E	—		×			
H-17	X290 Y101	(0.34)	(1.2)	7	(0.22)	N-82°-E	—		×			
H-18	X285・287 Y103・104	(6.9)	(5.32)	36	(14.15)	N-73°-E	不明		○			
H-19	X285・286 Y103	2.86	(1.42)	7.5	(3.63)	N-93°-E	東壁南寄り		×			
H-20	X283・284 Y103	(2.16)	(2.08)	50	(2.86)	N-57°-E	—		×			
H-21	X282・283 Y103	(6.36)	(4.34)	49	(14.40)	N-72°-E	東壁南寄り 両袖石あり大井石あり	粘土	×			
H-22	X279・280 Y103	(4.76)	(2.4)	51	(5.49)	N-65°-E	—		×			
H-23	X276・277 Y96～98	不明	不明	不明	N-0°-E							
H-24	X276・277 Y96～98	不明	不明	不明	N-15°-W							
T-1	X287 Y105	2.2	2.18	53.0	[4.42]	N-80°-E						
T-2	X279 Y104	(2.1)	(1.56)	70.5	[2.01]	N-69°-E						
T-3	X279 Y104	1.70	(2.06)	70.5	[2.04]	N-70°-E						
T-4	X279 Y104	(2.36)	1.66	95.0	(3.12)	N-71°-E						
T-5	X277・278 Y101・102	(1.8)	2.14	58.5	(2.62)	N-67°-E						
T-6	X280・281 Y103	(1.8)	(0.94)	36.0	(0.80)	N-66°-E						

Tab. 3 土坑・井戸跡等計測表

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X276, Y106	106	98	30.0	円形		
D-2	X278, Y105	104	100	22.0	円形		
D-3	X276・277, Y103・104	160	154	63.5	円形		
D-4	X277・278, Y104	65	20	12.0	(円形)		
D-5	X284, Y103	80	70	65.0	正方形		
D-6	X289, Y103	73	69	27.5	円形		
I-1	X289・290, Y106・107	290	270	未完組	不整形		

Table 4 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表

番号	出土遺物 前綴	標本名	①口徑 ②高さ ③底径	④内面 ⑤外側 ⑥内面 ⑦底面	器形の特徴・象形・調節技術	登錄番号	備考	
1	H-1	須磨鏡 高台鏡	①— ②— ③—	④(2.9)	⑤長身 ⑥直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
2	H-1	土鏡	①— ②— ③—	④(8.3)	⑤SYR6/42-12-1 ⑥直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要1	
3	H-1	土鏡	①— ②— ③—	④(2.4)	⑤直筒形 ⑥SYR6/1/10 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要2	
4	H-3	土鏡	①— ②— ③—	④(2.4)	⑤直筒形 ⑥SYR7/68 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	2	
5	H-3	土鏡	①— ②— ③—	④(2.5)	⑤直筒形 ⑥SYR4/68 ⑦G1/1	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
6	H-3	土鏡	①— ②— ③—	④(2.1)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	3	
7	H-7	土鏡 木柄	①19.7 ②— ③—	④(3.4)	⑤直筒形 ⑥SYR7/11 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	H-5 鏡 H-7 鏡土	
8	H-7	須磨鏡 高台鏡	①— ②— ③—	④(1.6)	⑤直筒形 ⑥SYR6/1 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要十	
9	H-7	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(2.4)	⑤直筒形 ⑥SYR7/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要12	
10	H-7	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(3.8)	⑤直筒形 ⑥SYR6/1 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	1	
11	H-7	須磨鏡 木柄	①— ②— ③—	④(3.8)	⑤直筒形 ⑥SYR4/2 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要3	
12	H-9	平鏡	①— ②— ③—	④(1.8)	⑤直筒形 ⑥SYR7/1 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要2	
13	H-10	圓鏡 木柄	①— ②— ③—	④(4.7)	⑤直筒形 ⑥SYR6/4 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	電鏡上	
14	H-11	圓鏡 木柄	①— ②— ③—	④(3.5)	⑤直筒形 ⑥SYR5/1 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	電力方	
15	H-11	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(1.8)	⑤直筒形 ⑥SYR7/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	電力方	
16	H-11	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(7)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	5・3・4	
17	H-11	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(7)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	床下出土	
18	H-11	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(5.4)	⑤直筒形 ⑥SYR6/8 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
19	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(2.7)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	5	
20	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(3.6)	⑤直筒形 ⑥SYR5/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	5・N —4 鏡土	
21	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(2.4)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	14・要土	
22	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(2.5)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	電3	
23	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(19.0)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	1・6・8 要12	
24	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(15.1)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要6	
25	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(26.0)	⑤直筒形 ⑥SYR7/4C ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	3・9・10 —4 鏡土	
26	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(15.4)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	電4	
27	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(32.3)	⑤直筒形 ⑥SYR6/3C ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要2	
28	H-4	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(22.9)	⑤直筒形 ⑥SYR6/4C ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	電1	
29	H-12	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(24.0)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要9 方	
30	H-12	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(5.6)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
31	H-12	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(3.9)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	6・7	
32	H-12	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(3.1)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
33	H-13	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(4.4)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
34	H-13	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(13.5)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要10	
35	H-13	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(4.3)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
36	H-13	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(15.8)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	
37	H-13	土鏡 木柄	①— ②— ③—	④(4.4)	⑤直筒形 ⑥SYR6/6 ⑦直筒形	直筒形。底部飾なし。底高台鏡。底辺だけ。	要土	

番号	川上過橋 部位	番号名	①CPR ②西高 ③東低	④始点 ⑤終点 ⑥調査 ⑦調査方 法	調査の特徴・要點・調査技術	立候場号	番号	
38	H-13	土頭右 岸	①[15] ②(22.5)	③地盤 ④SYR3/8後方 ⑤—	口縫部は外気50cmに開く。内面ヨコナダ。段丘部から斜面中位、外面斜壁のヘラ削り底盤のミガキを施す。内面は横材のヘラナダ。	右岸上		
39	H-13	土頭左 岸	①[17.4] ②(7.6)	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	脚部外側へヘタナダ。内面輪郭筋が丸りヘタナダ。口縫部折り返し内面ヨコナダで外反気隙に覆く。	左		
40	H-13	船底	①M.1 ②3.1	③— ④形狀			1	
41	H-14	土頭左 岸	①[15] ②(4.9)	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	体部は内面して立ち上がり。口縫部は内側口縫、外側丸底。体部外側へケタナダ。内面ヨコナダ施設。底盤段はアンモンを施す。段丘。	3・右岸上		
42	H-14	土頭右 岸	① ②4.3	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	脚部背面へケタナダ。内面ヨコナダ後ヘタミガキを施す。体部から内面立ち上り口縫部に外側する。底盤は欠損。	右岸		
43	H-14	土頭右 岸	①[19] ②(6.8)	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	脚部前面ヨコナダ。内面へラミガキが施されている。口縫部と体部との境に縫を有し。口縫部は外反する。	6		
44	H-14	船底	①D.2.1 ②4.3	③— ④形狀	脚部整形。底部切り差し方法不明。体部は内面気隙に立ち上る。		1	
45	H-15	土頭左 岸	①— ②(10.4)	③中段 ④SYR3/7にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/7にいぶい ④—	体部、外側、縫合へケタナダ。内面ヘタナダ。	右岸上	
46	H-18	土頭左 岸	① ②—	③[5.7] ④—	①脚部 ②良好 ③SYR3/7にいぶい ④—	体部外側へケタナダ。内面ヨコナダで内面して立ち上がる。体部と口縫部との間に縫を有し内面外側ヨコナダ。口縫部丸底、底盤丸底。	右岸上	
47	H-18	土頭右 岸	①[11.6] ②(4.5)	③中段 ④SYR3/7後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/7後方 ④—	脚部外側へケタナダ。内面ヨコナダ。体部から内面して立ち上がり口縫部は内側口縫、底盤丸底。	1	
48	H-18	土頭右 岸	①[14] ②(3.9)	③中段 ④SYR3/7後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/7後方 ④—	脚部外側へケタナダ。内面ヨコナダ。体部から内面して立ち上がり口縫部は内側口縫、底盤丸底。	2	
49	H-18	土頭左 岸	①[12] ②—	③中段 ④SYR3/6後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/6後方 ④—	脚部外側ヨコナダの後、口縫部と頂部ヨコナダ。内面ヨコナダ。口縫部は外 側ヨコナダ。	3・右岸上	
50	H-21	土頭左 岸	①[12] ②(5.2)	③中段 ④SYR3/6後方 ⑤—	体部、外側へケタナダ。内面で立ちより体部とは縫との間に縫を有し内面ヨコナダ。口縫部は内面して立ち上り口縫部で外反する。		1	
51	H-21	土頭右 岸	①[18.7] ②5.4	③中段 ④SYR3/6後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/6後方 ④—	体部と口縫部との間に縫を有す。底盤丸底。体部外へケタナダ。口縫部は内面ヨコナダで内面ヨコナダ。	5	
52	H-21	土頭左 岸	①[12.2] ②5.1	③中段 ④SYR3/6後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/6後方 ④—	体部と口縫部との間に縫を有す。丸底は丸底。体部へフタリ。口縫部は内面ヨコナダ。口縫部は直立し、口縫部で小さく外反する。	右	
53	H-21	土頭左 岸	①[29] ②(8.3)	③中段 ④SYR7/4にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR7/4にいぶい ④—	口縫部は外反して開き状を有する。内面は無ヨコナダ。脚上部は内面ヨコナダのヘタナダ。	3	
54	H-21	土頭左 岸	①— ②(5.2)	③中段 ④SYR7/4にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR7/4にいぶい ④—	脚部前面ヨコナダ。内面ヨコナダ、ヘタケタナダ。直面へ吹き気隙の平底。	右	
55	H-21	土頭左 岸	①[22.6] ②(16)	③中段 ④SYR7/4にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR7/4にいぶい ④—	口縫部外側へケタナダ。内面ヨコナダ。口縫部は脚部上位より外反して立ち上がる。脚部外側ヨコナダ。内面ヘタナダ。	2	
56	H-22	土頭左 岸	①[12] ②4.9	③中段 ④SYR3/6後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/6後方 ④—	体部外側へケタナダ。内面へラミガキを施し。体部から内面口縫部に至る。底盤丸底。	右岸上	
57	H-22	土頭左 岸	①— ②—	③中段 ④SYR7/4にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR7/4にいぶい ④—	脚部外側ヨコナダへケタナダ。内面ヘタナダ。口縫部は脚部から直角的に立ち上がりや直角する。	1	
58	H-24	土頭左 岸	①[12] ②11.9	③中段 ④SYR6/6にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR6/6にいぶい ④—	脚部は縫にかけてふくらみをもって内面して立ち上がり。口縫部直角気隙へラミガキを内面外側に施す。鶴嘴は大きくて外反して縫開円孔を穿つヘタミガキを内面に施す。	1	
59	方舟	土頭左 岸	①[8.8] ②10.1	③中段 ④SYR7/4にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR7/4にいぶい ④—	底盤は底盤で内面ヨコナダに立ち上る。底盤は手平。脚部の内面へケタナダ。内面ヨコナダ後ヨコナダへラミガキを施す。	1	
60	W-2	土頭左 岸	①— ②—	③中段 ④SYR7/4にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR7/4にいぶい ④—	脚部横位へケタナダ後上位にはヘタミガキを施す。内面ヨコナダ。	上岸	
61	W-2	土頭左 岸	①[14] ②—	③中段 ④SYR6/6後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR6/6後方 ④—	脚部外側へケタナダ。内面へタナダ。口縫部の内面ヨコナダ。口縫部は外反ヨコナダで立ち上がる。	上岸	
62	W-2	土頭左 岸	①[29.0] ②(7.7)	③中段 ④SYR6/6後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR6/6後方 ④—	脚部は水平に開き反氣隙に立ち上がる。内面ヨコナダ後ヘタミガキを施す。	上岸	
63	W-2	土頭左 岸	①[19] ②—	③中段 ④SYR6/6後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR6/6後方 ④—	脚部は水平に開き「く」の字に屈曲して、外反脚位に覆く。	上岸	
64	W-2	土頭左 岸	①— ②(7.6)	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/8後方 ④—	脚部は丸底を蓄り位で最大となる。底盤は丸底。口縫部の場には横材を有し口縫部は外反気隙に立ち上る。脚部外側へケタナダ。内面はヘタナダ。	上岸	
65	W-2	土頭左 岸	①[12.2] ②(5.1)	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/8後方 ④—	脚部外側へケタナダ。内面脚部横位にアンモンを施す。口縫部外延ヨコナダ。脚部上へ横材の場を有し上部横材から直立へ外反する。底盤丸底。	上岸	
66	T-1	土頭左 岸	①[13.4] ②(4.8)	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/8後方 ④—	体部内面し、地盤面に下る。内面へラミガキ。口縫部外側へケタナダ。内面へラミガキを施す。	3	
67	T-1	土頭左 岸	①— ②—	③中段 ④SYR6/6にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR6/6にいぶい ④—	脚部外側へケタナダ。内面へタナダ。口縫部内面ヨコナダ	右岸上	
68	T-2 + 3 + 4	重	①[19.9] ②(5.6)	③中段 ④SYR6/6にいぶい ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR6/6にいぶい ④—	脚部外側へケタナダ。内面へタナダ。口縫部内面ヨコナダ。口縫部は直立ヨコナダで外引括る。	右岸上	
69	I-1	壳	①— ②—	③中段 ④SYR3/8後方 ⑤—	①脚部 ②良好 ③SYR3/8後方 ④—			

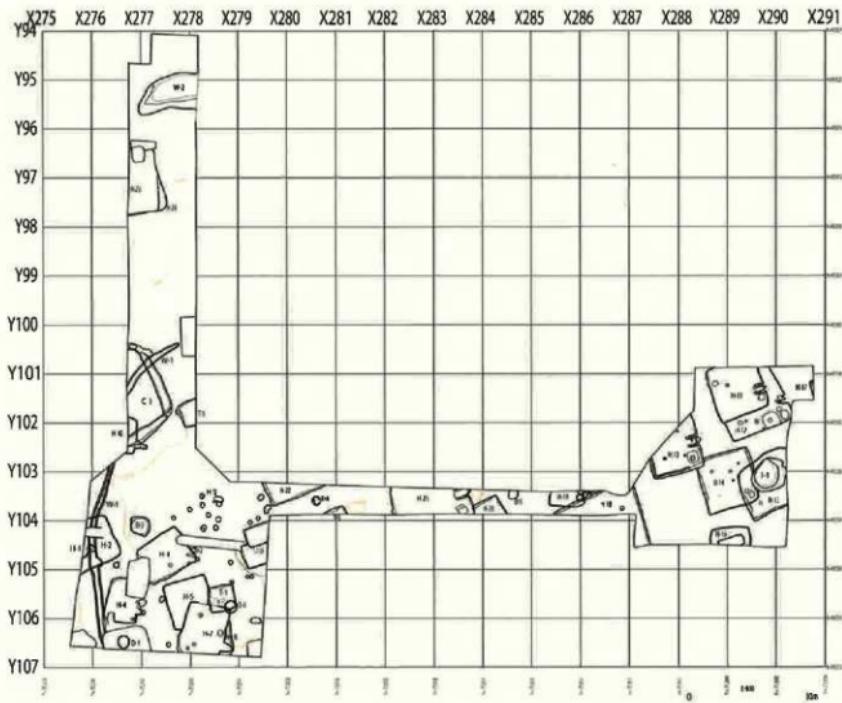


Fig. 5 元總社蒼海遺跡群 (56) (61) 全体図・H-1

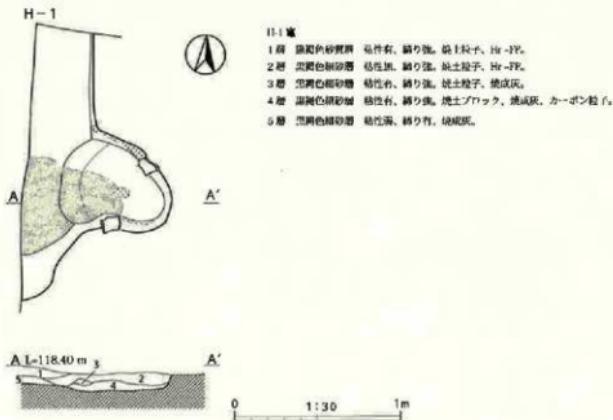


Fig. 6 元總社蒼海遺跡群 (56) (61) H-1

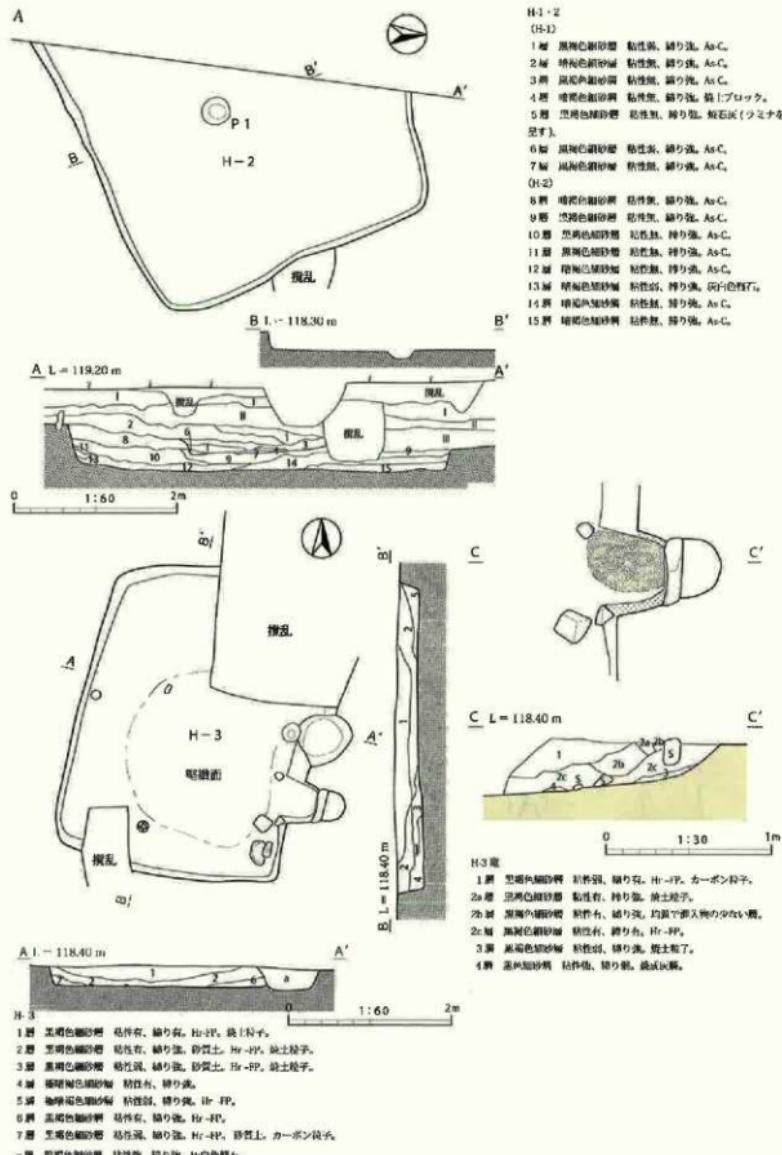


Fig. 7 元總社苔海遺跡群 (56) (61) II-2, II-3

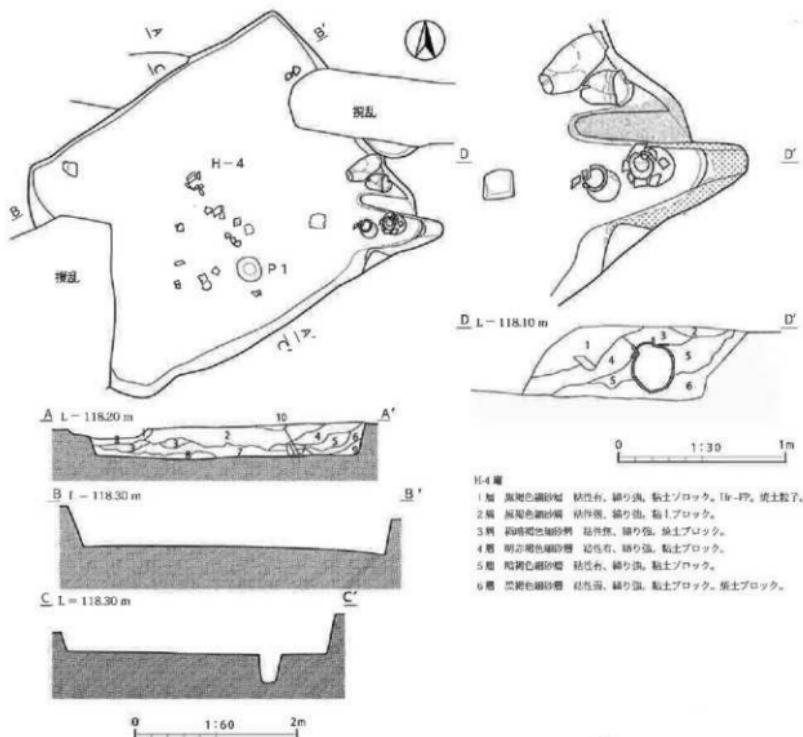


Fig. 8 元穂社苔海遺跡群 (56) (61) H-4

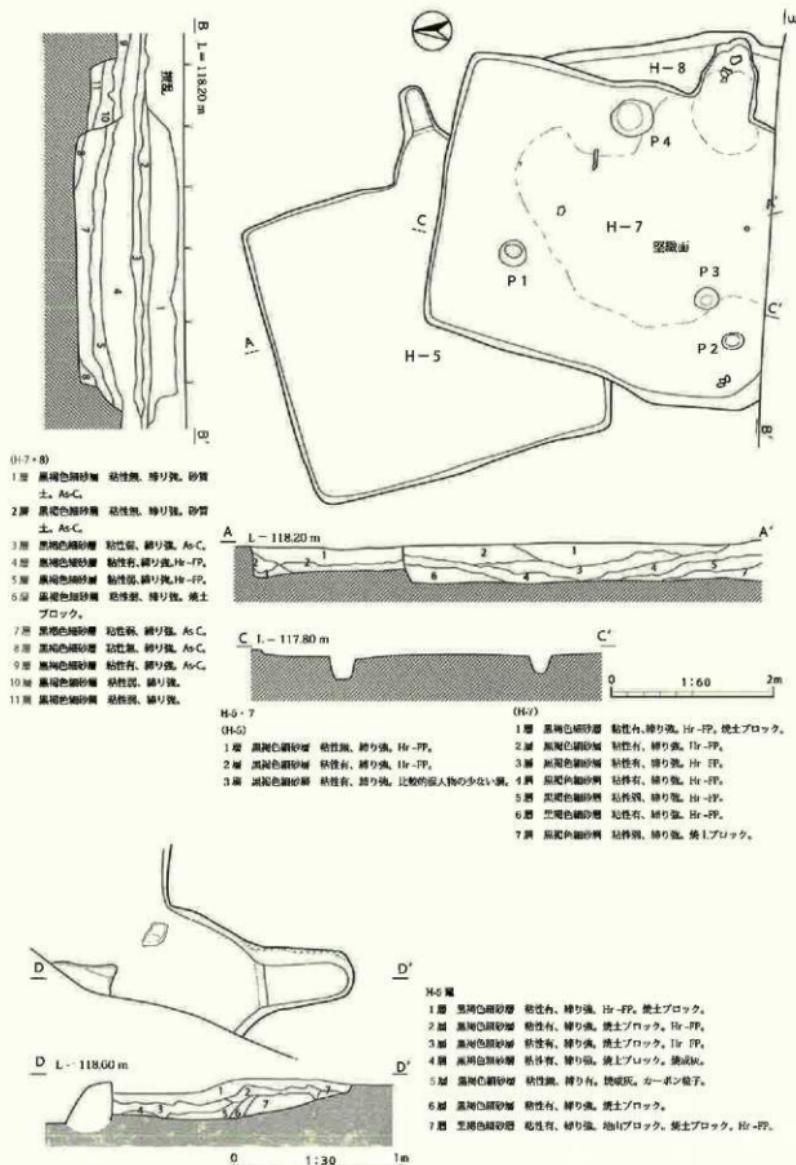
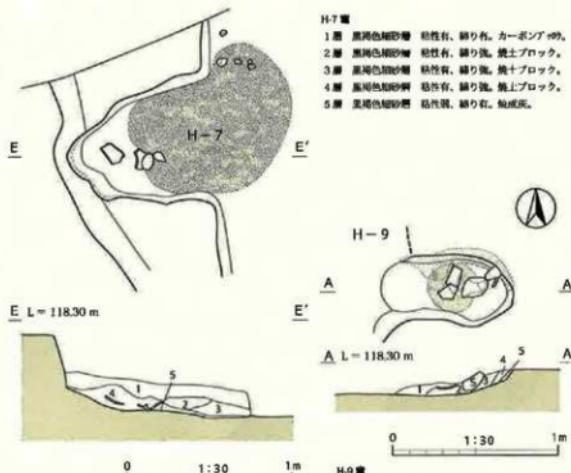


Fig. 9 元總社蒼海遺跡群 (56) (61) H-5, H-7, H-8



H-9

1層 黒褐色細砂層 粘性無、繊り強。焼土ブロック。

2層 黒褐色細砂層 粘性無、繊り強。焼成灰。焼土ブロック。

3層 黒褐色細砂層 粘性強、繊り強。焼土ブロック。

4層 黒褐色細砂層 粘性強、繊り強。焼土ブロック。

5層 黒褐色細砂層 粘性無、繊り強。よく焼けた焼土層。

A L = 118.30 m

A' 5

0 1:30 1m

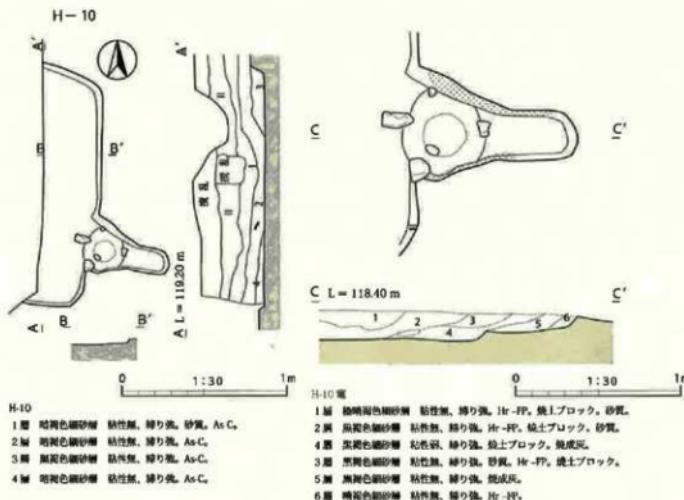


Fig. 10 元總社蓄海遺跡群 (56) (61) H-7、H-9、H-10

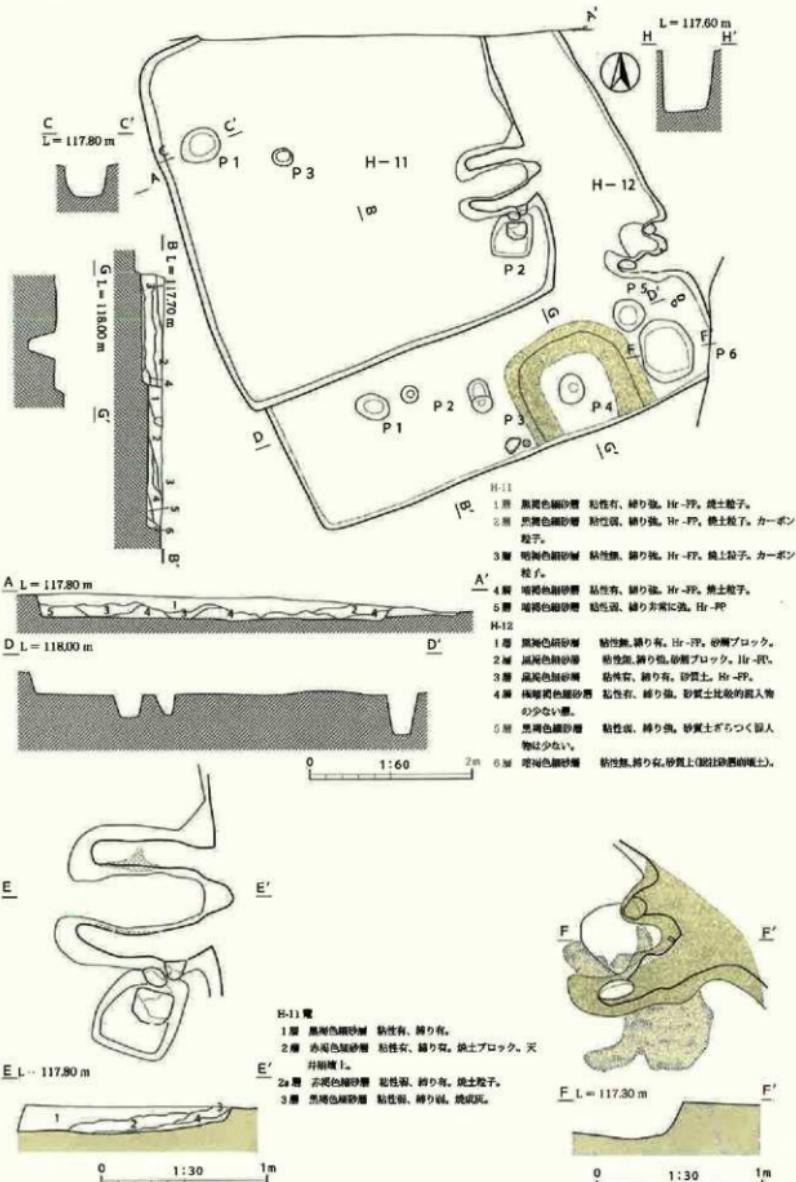


Fig. 11 元説社蒼海遺跡群 (56) (61) H-11, H-12

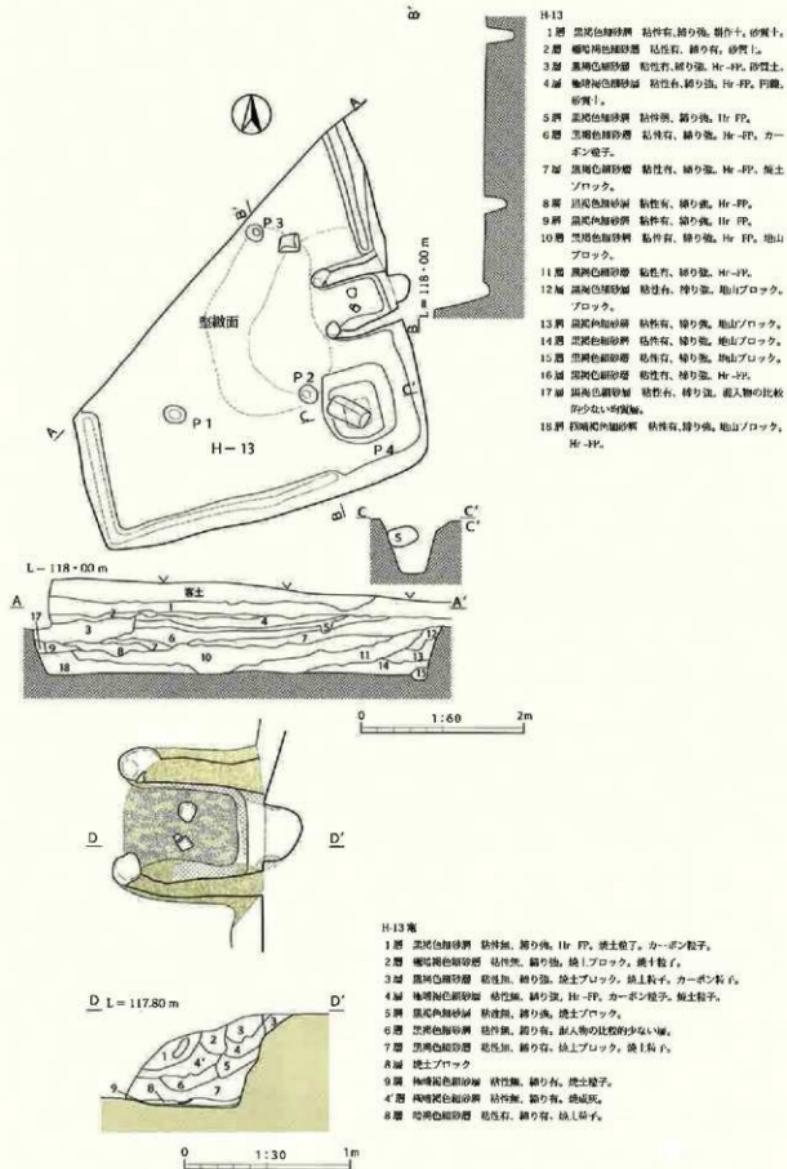


Fig. 12 元続社蒼海遺跡群 (56) (61) H-13

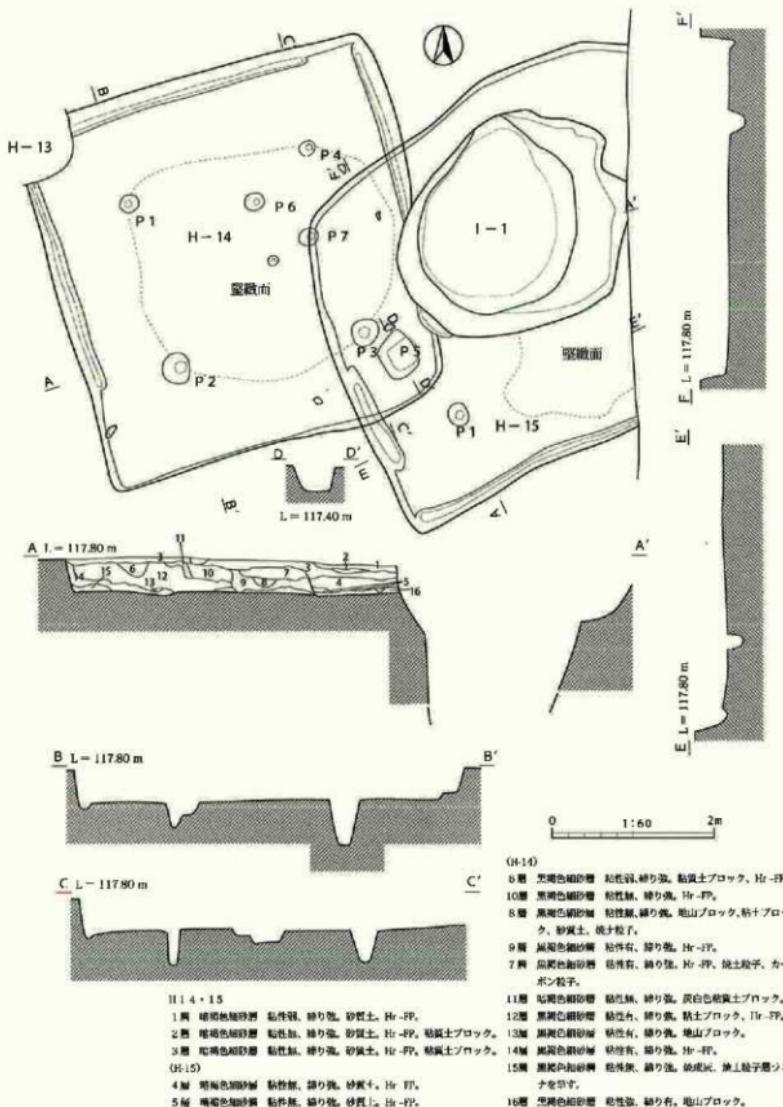


Fig. 13 元總社黃海遺跡群 (56) (61) H-14、H-15

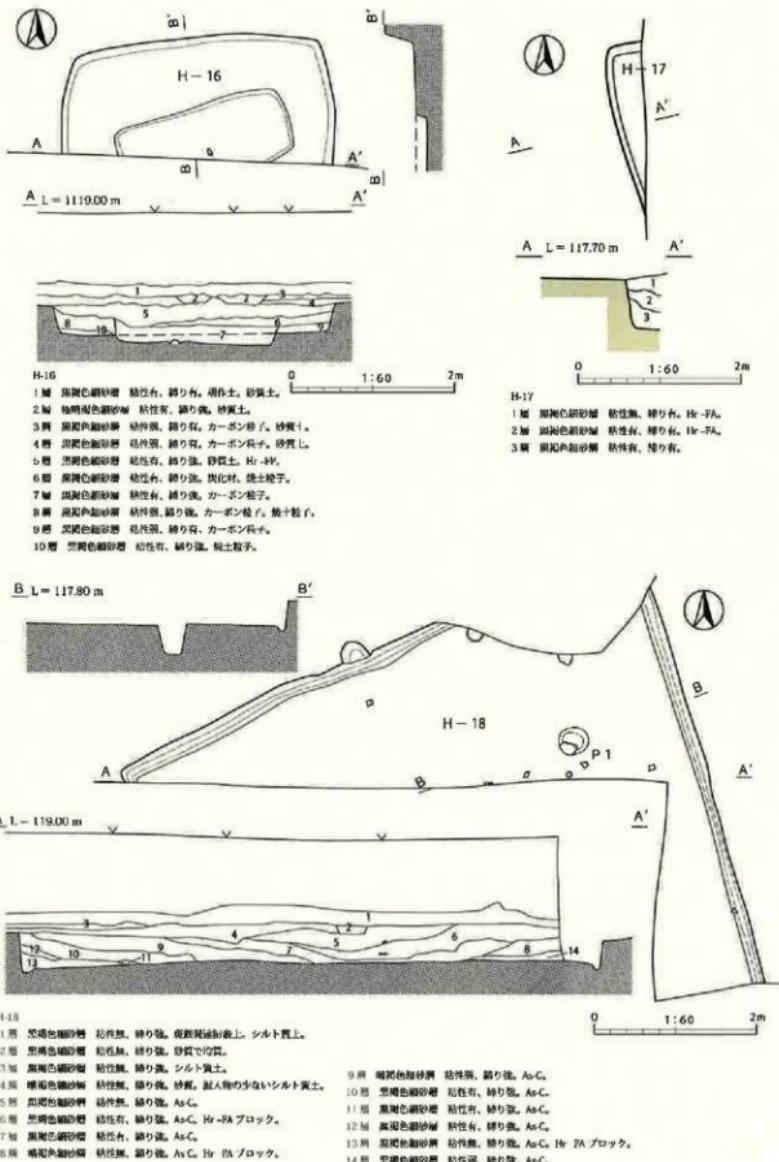
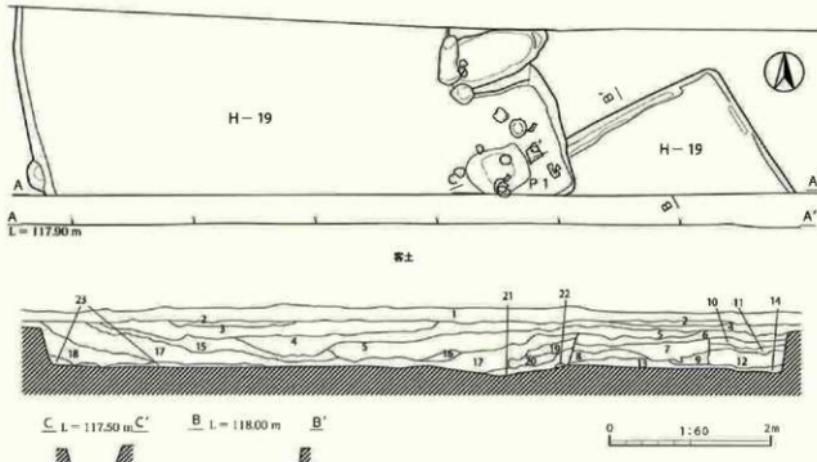
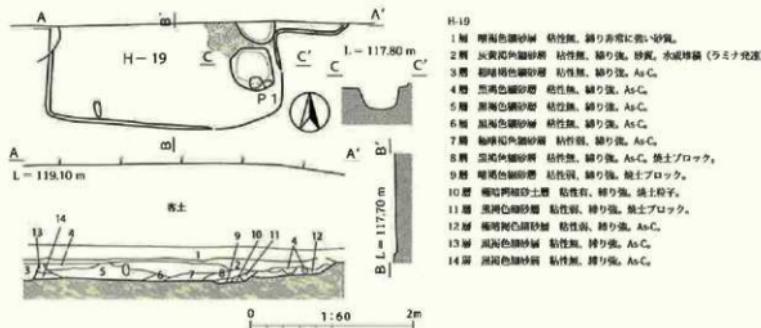


Fig. 14 元總社苔海遺跡群 (56) (61) H-16, H-17, H-18



- H 20 - 21
- 1層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
2層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
3層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
4層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
5層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
6層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
7層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
8層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
9層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
10層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
11層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
12層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
13層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
14層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
- (H 21)
- 15層 滅潤色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s Hr-FA ブロック
16層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
17層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
18層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
19層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
20層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。As-C_s
21層 黑褐色細砂層 黏性有、練り強。As-C_s
22層 滅潤褐色細砂層 黏性弱、練り強。As-C_s
23層 黑褐色細砂層 黏性無、練り強。沙性。小凹槽。

Fig. 15 元経社蒼海遺跡群 (56) (61) H-19, H-20, H-21

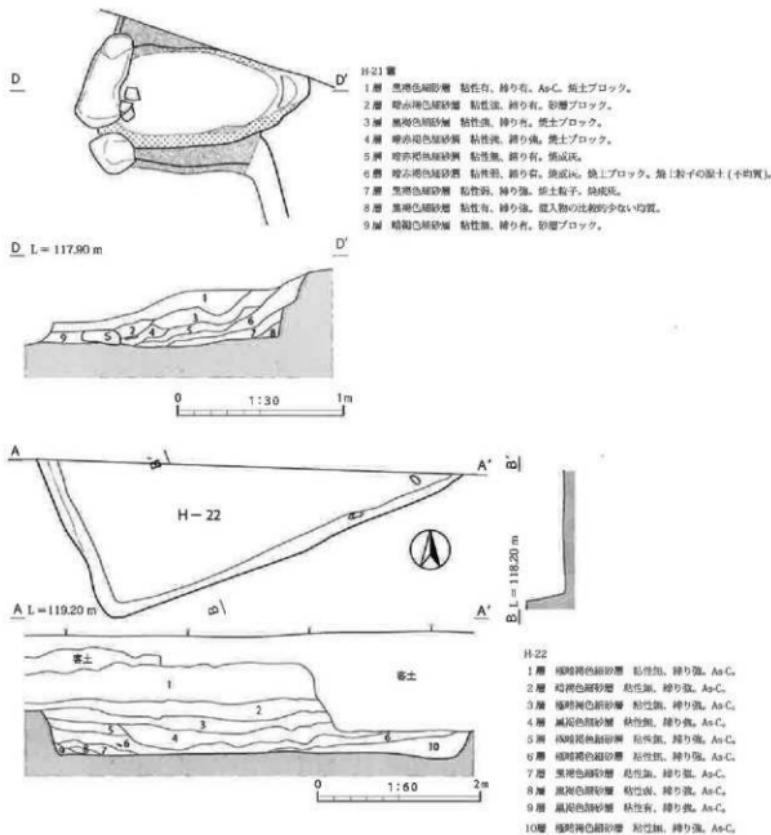


Fig. 16 元總社蓄水池跡群 (56) (61) H-21、H-22

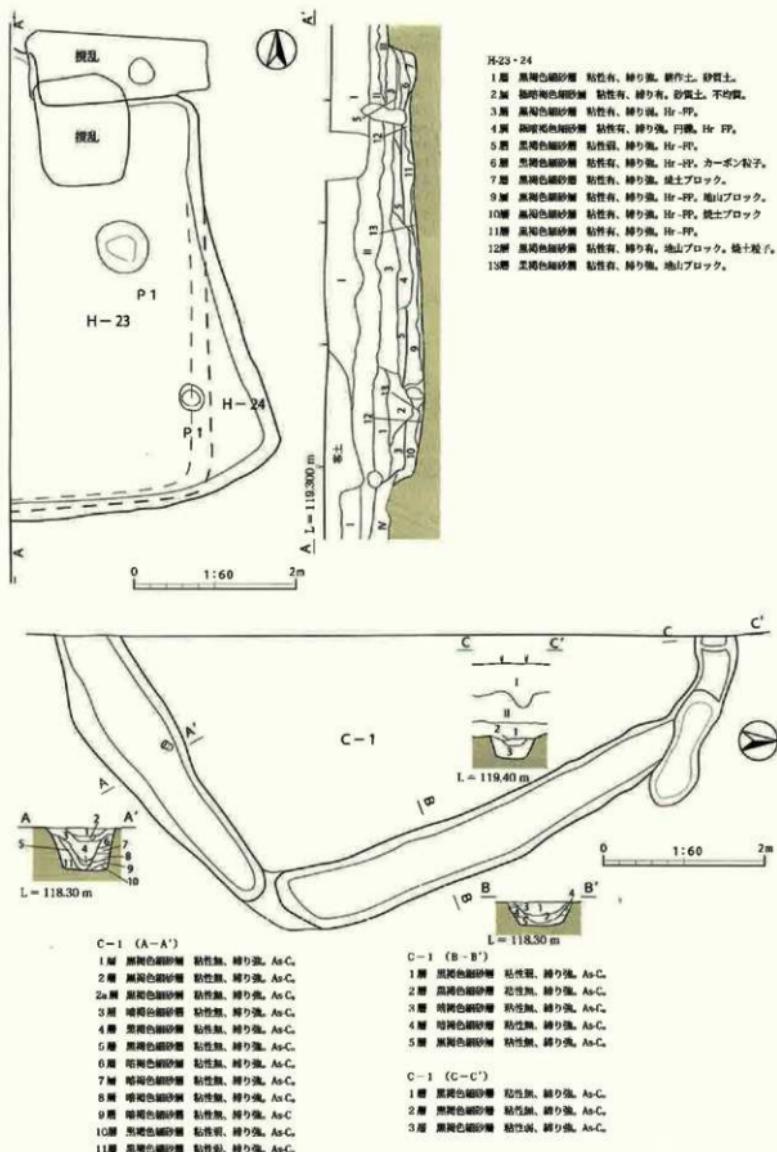


Fig. 17 元總社薺海遺跡群 (56) (61) H-23、H-24、C-1

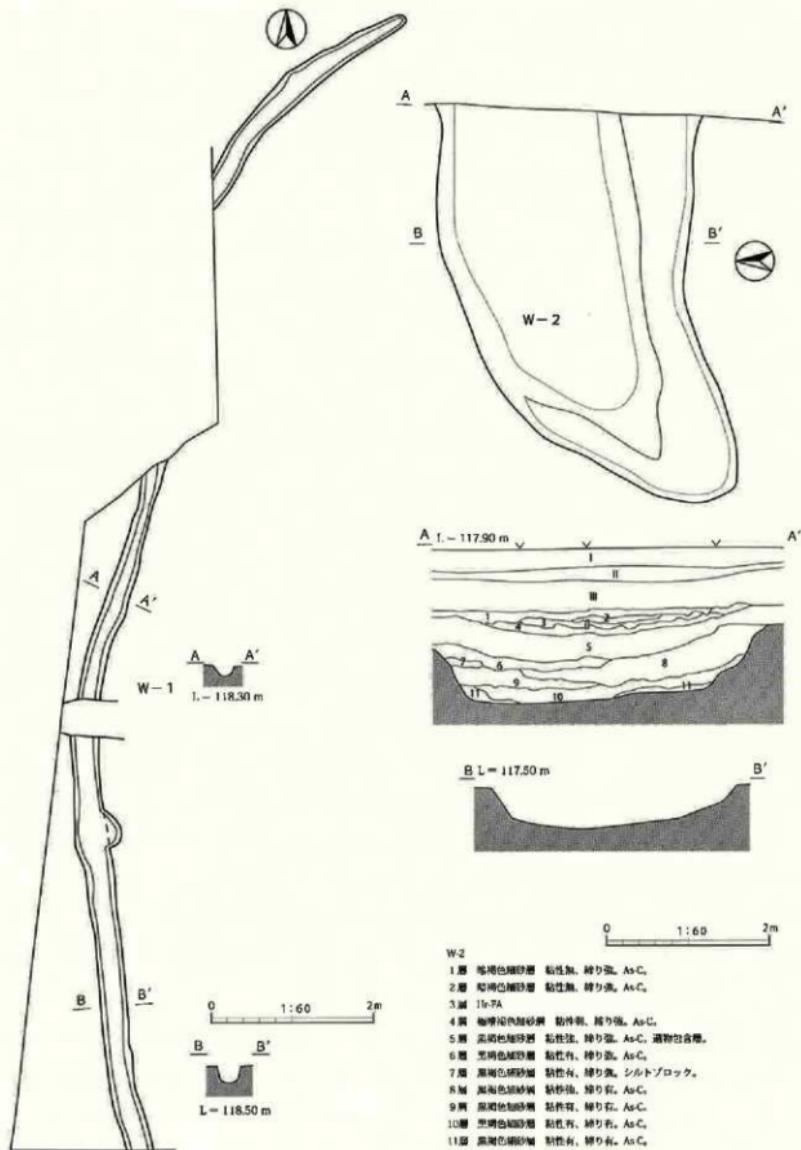


Fig. 18 元總社黃海遺跡群 (56) (61) W-1、W-2

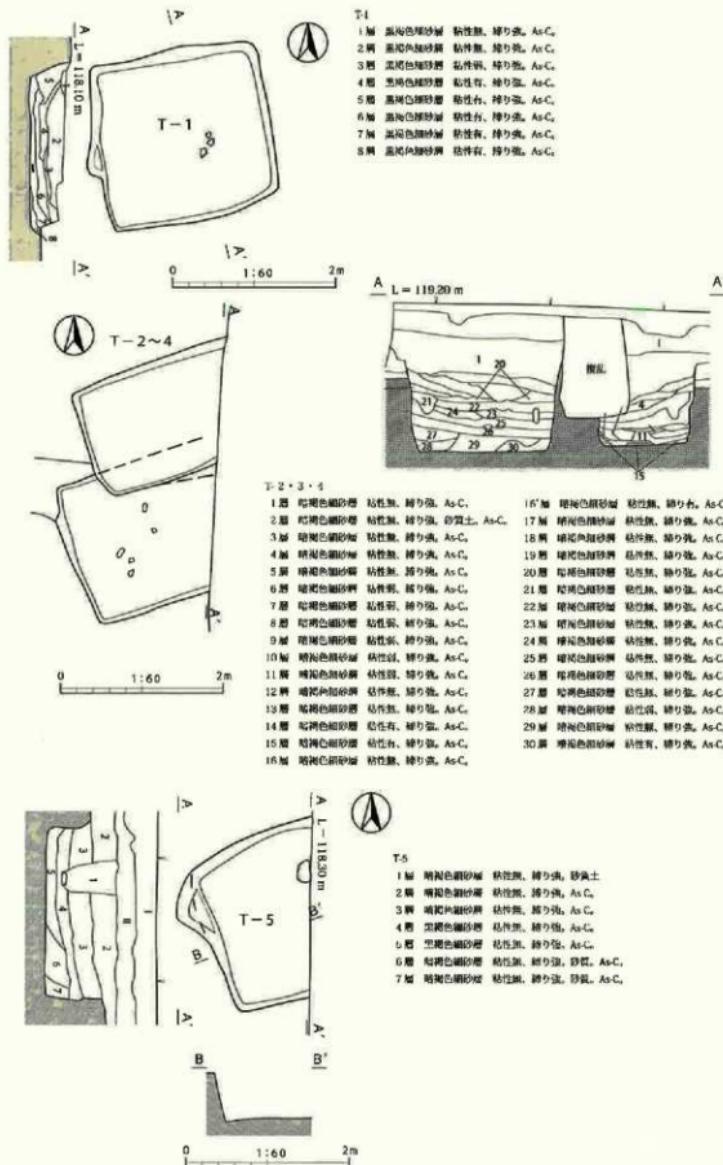


Fig. 19 元紹社墓海遺跡群 (56) (61) T-1～5

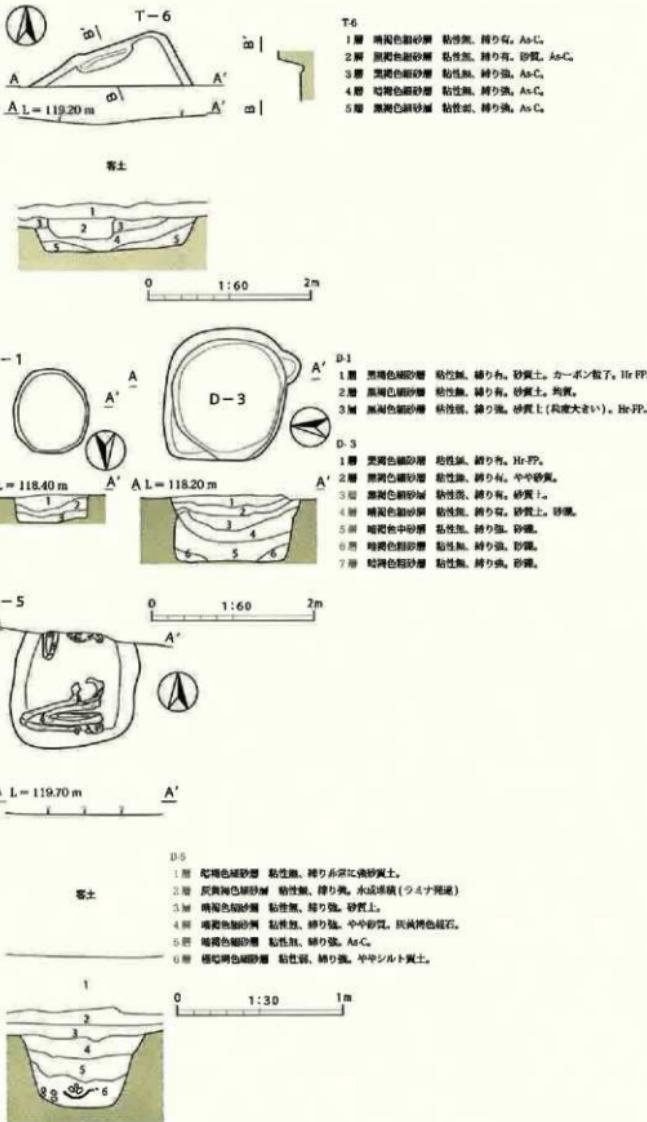


Fig. 20 元總社古海遺跡群 (56) (61) T-6, D-1・3・5

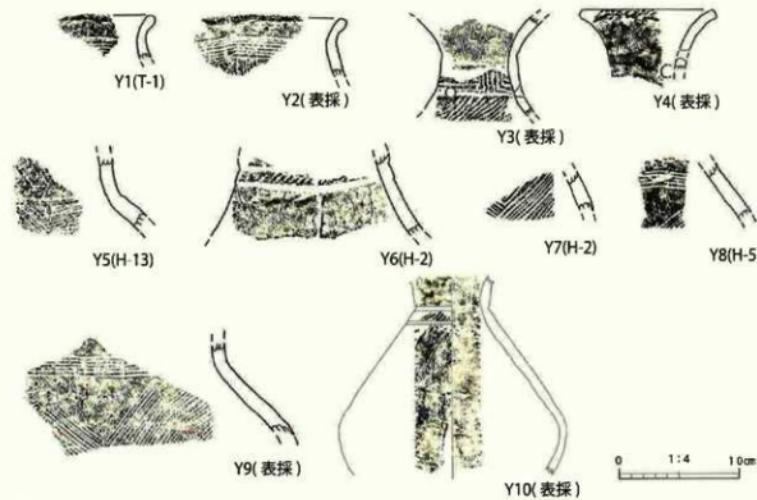
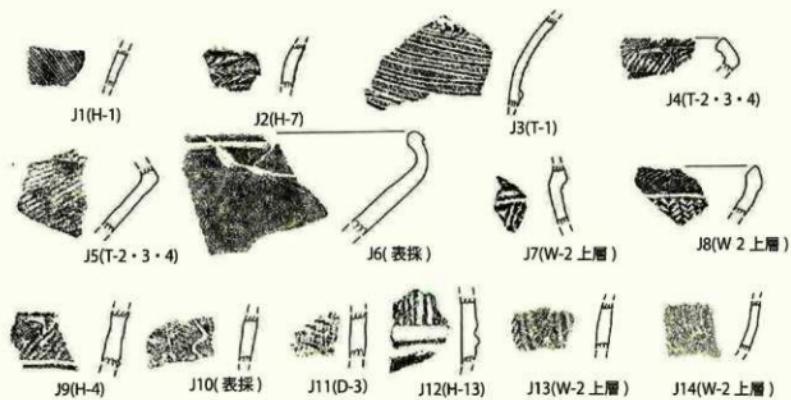


Fig. 21 元絶社蒼海遺跡群 (56) (61) 繩文時代・弥生時代出土遺物

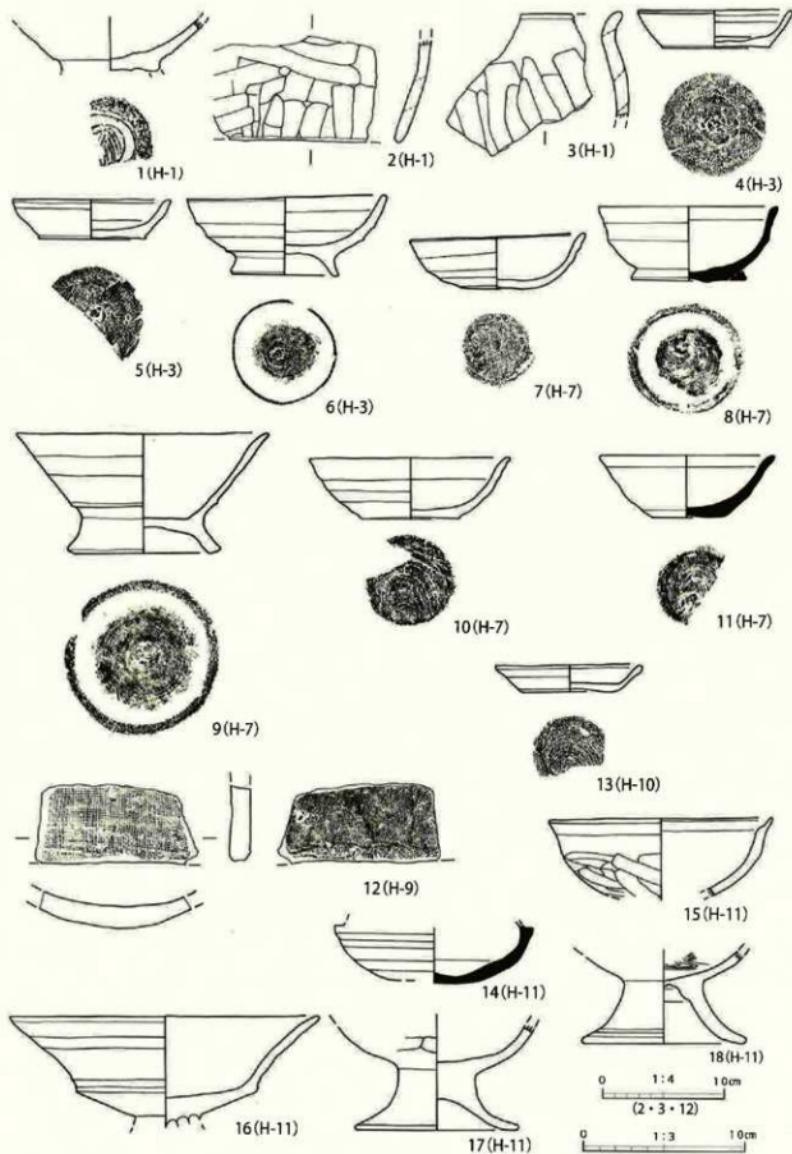


Fig. 22 元緒社斎海遺跡群 (56) (61) H-3・7・9・10・11出土遺物

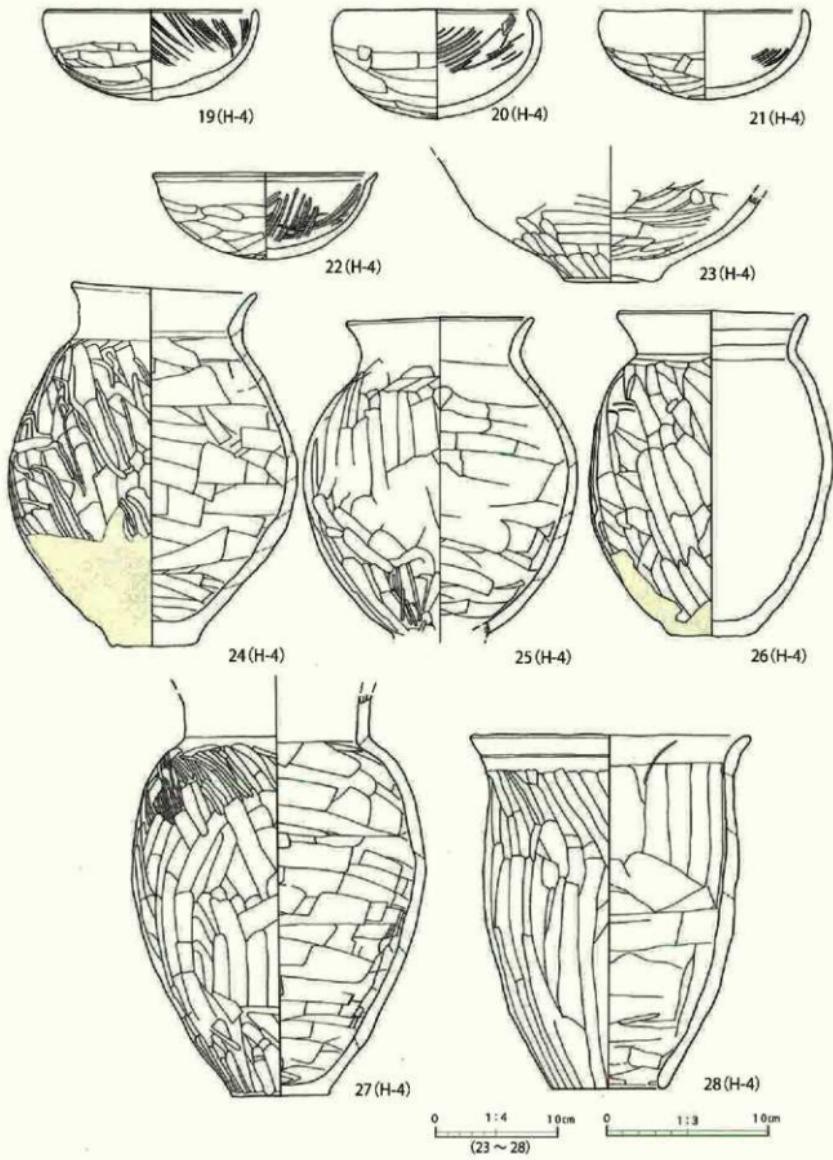


Fig. 23 元總社沿海遺跡群 (56) (61) H-4 出土遺物

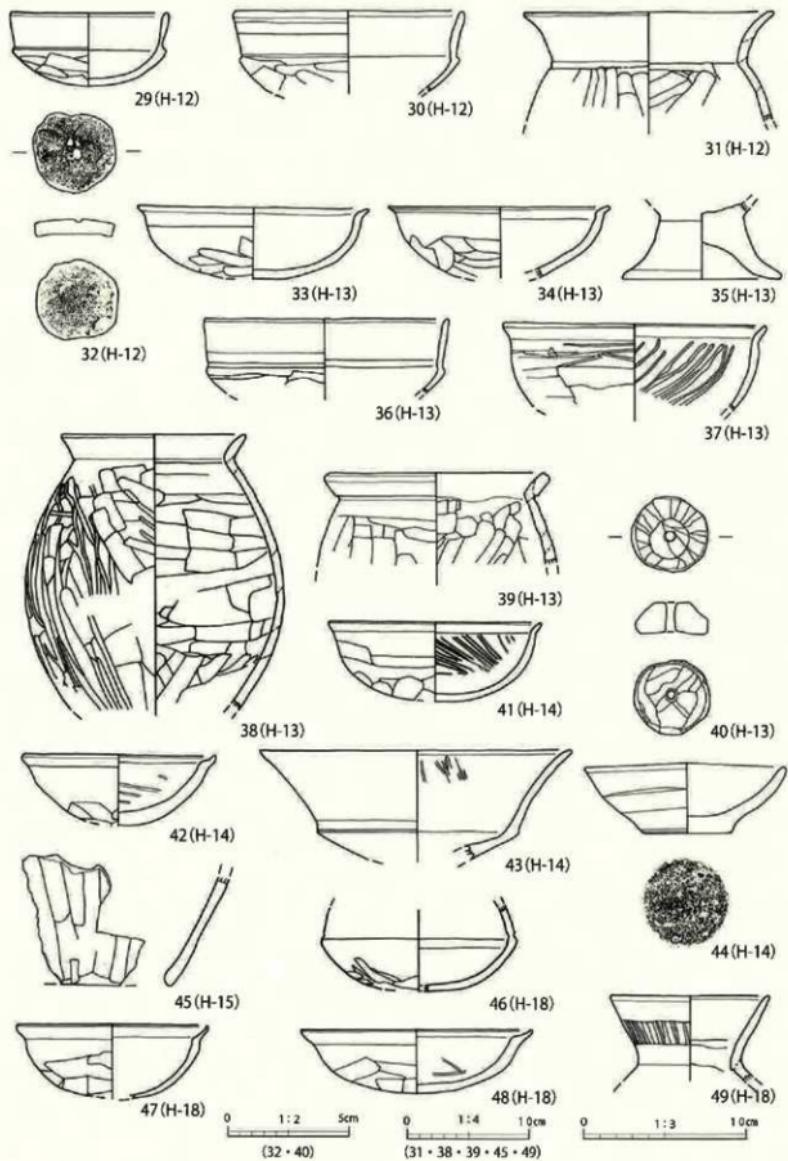


Fig. 24 元絶社蒼海遺跡群 (56) (61) H-12~15・18出土遺物

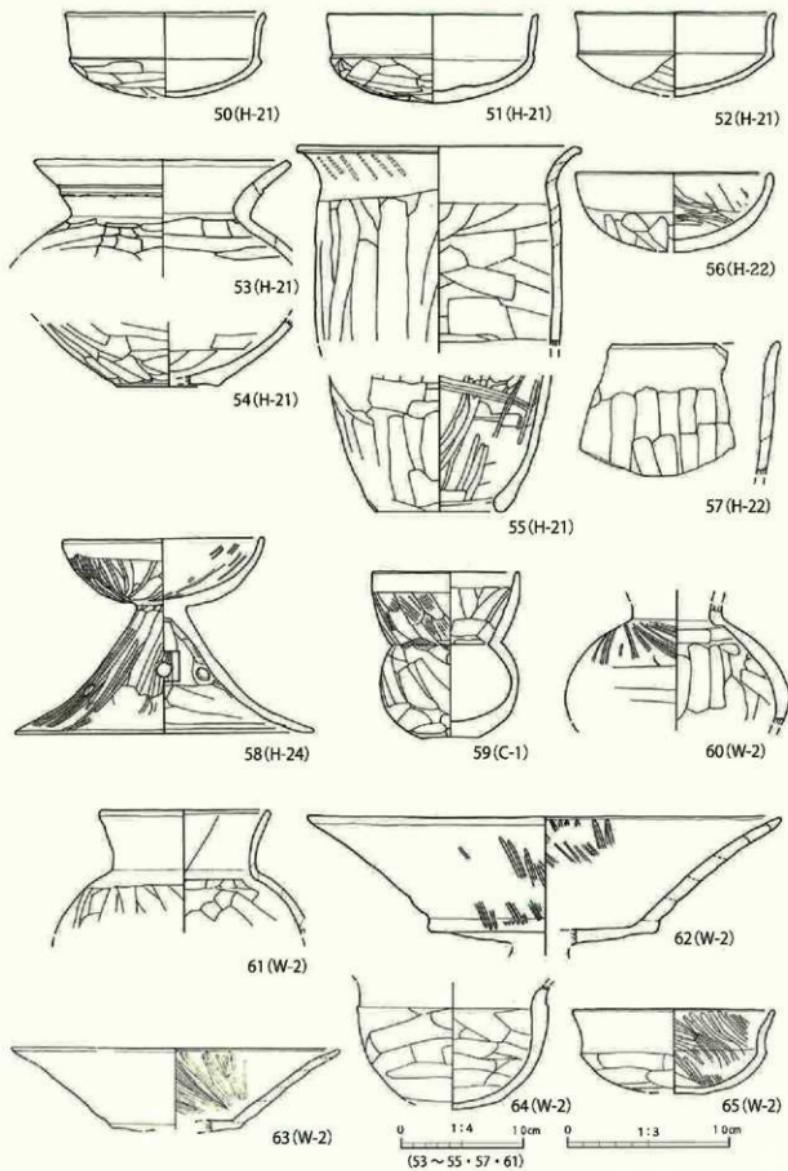


Fig. 25 元緒社臺海遺跡群 (56) (61) H-21•22•24、C-1、W-2出土遺物

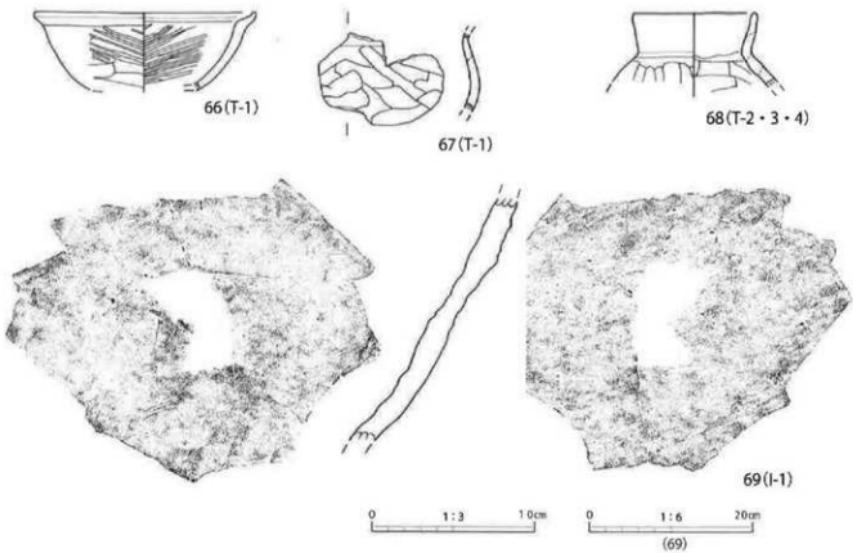


Fig. 26 元總社蒼海遺跡群 (56) • (61) T—1 • 2 • 3 • 4、I—1 出土遺物

V 元総社蒼海遺跡群 (72)

1 調査区の概要

本調査区は苔海遺跡群(61)の西北西約100mほどに位置し、標高約118m程を有する。調査区の北西には五千石用水がかつては流れしており、台地の西の縁辺でもあることから、遺構の密度は低い。検出された遺構は、平安時代の堅穴住居跡が1軒、その堅穴住居跡より新しい溝跡1条を検出した。

2 基本層序

- I層 暗褐色細砂層 現表土。
- II層 暗褐色細砂層 As-Cを混入する砂質土層。
- III層 暗褐色粗砂層 As-C(II層より粒度は大きい)を混入する砂質土層。
- IV層 暗褐色粗砂層 細粒砂層起因の砂質土ブロック混入する。

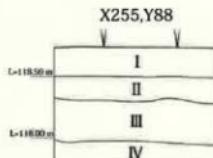


Fig. 27 元總社苔海遺跡群(72)
基本層序

3 遺構と遺物

(1) 堅穴跡住居跡

H-1号住居跡 (Fig.28, PL. 8)
位置 X255、Y85+86グリッド 主軸方向 N-101°-E 形状等 角丸方形 東西(2.02)m 南北3.30m 壁現高14.5cm 面積 (5.07)m² 床面 ほぼ平坦である。竈 南東部の床面に焼土が確認できるところから調査区外の東壁南東隅に存在するものと思われるが、詳細は不明。重複 W-1と重複しW-1-1より古い出土遺物 土師器・壺、高台椀、灰釉陶器片、瓦 時期 10世紀

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.28, PL. 8)

位置 X255、Y85+86グリッド 形状等 円形 最大上幅62.0cm 最低下幅30.0cm 深さ9.5cm 重複 II-1と重複しH-1より新しい。出土遺物 なし 時期 不明

Tab. 5 元總社苔海遺跡群(72)出土土器観察表

番号	出土遺構 部位	器種名	①口径 ②断面 ③底径	④断土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦断面序	器種の特徴・形状・調査技術	寸法等付	備考
1	H-1 +洋茶 床	圓窓器 ①11.2 ②-	③3.5 ④-	⑤細粒 ⑥良好 ⑦SYRA/良成 ⑧/3	輪縁有り。底盤削除あり出し底盤脚。体部は底盤から内側で立ち上り、口部はやや外反気味。	覆土	
2	H-1 +洋茶 床	圓窓器 ①1- ②-	③6.7	④中粒 ⑤良好 ⑥SYRA/良成 ⑦	底部回復ヘラケリ後底面貼り付け。	覆土	
3	H-1	平瓦 ①	②	③ ④ ⑤		覆土	
4	H-1 圓窓器 床	圓窓器 ①11.8 ②	③1.9 ④	⑤細粒 ⑥良好 ⑦SYRA/灰白 ⑧	輪縁有り。底盤削除あり出し底盤脚。口幅大きく焼き底盤から内側 部分に口縁に至る。	覆土	
5	H-1	窓器 ①	②(7.0)	③ ④燒片	口縁部にかけて内側し、断面二角形の脚を貼付する。	覆土	
6	H-2	窓器 ①	②(7.9)	③ ④燒片	口縁部にかけて内側し、断面三角形の脚を貼付する。	覆土	

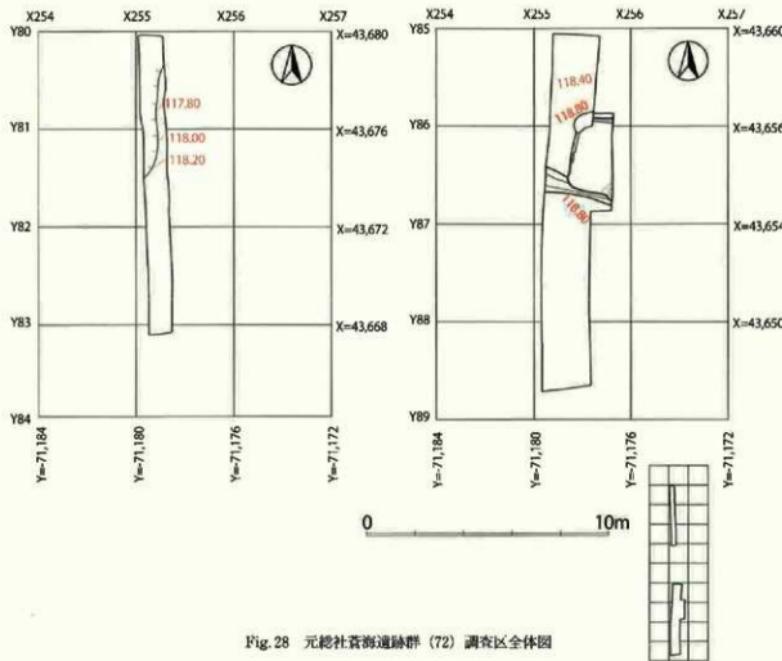


Fig. 28 元總社苔海遺跡群 (72) 調査区全体図

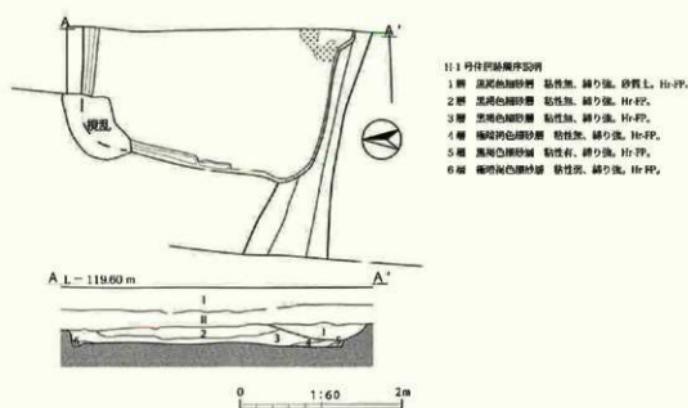


Fig. 29 元總社苔海遺跡群 (72) H-1、W-1

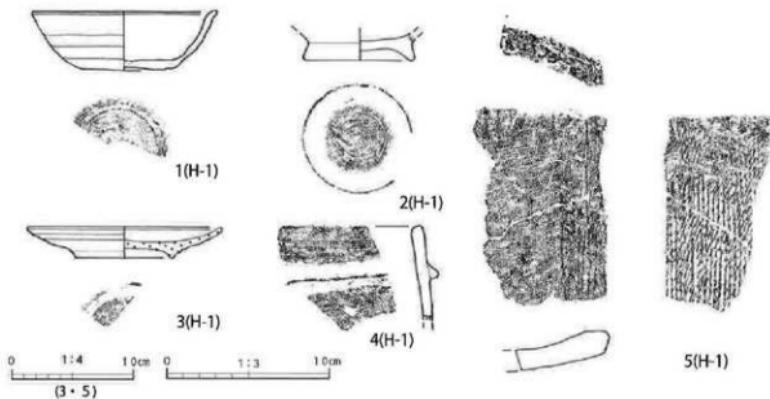


Fig. 30 元朝社蒼海遺跡群 (72) H—1 出土遺物

VI 元総社蒼海遺跡群 (73)

1 調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群（61）の西南西約140mにほどに位置し、標高約118m程度を図る。調査前には住宅が建っており、住宅建設・撤去に伴うと思われる搅乱が存在するほか、確認面まで達する木根等により保存状態はよくなかった。また、調査区の北は西に向かう道路が切り通し状に存在し、調査面積は136m²ほどであった。

本調査区の発掘調査は、以上のような状況から遺構の検出は少なく、出土遺物もほとんど皆無であった。

2 基本層序

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| I層 暗褐色 (10YR3/3) 細砂層 | 現表土。 |
| II層 暗褐色 (10YR3/3) 細砂層 | 比較的均質で As-C を混入する砂質土層。 |
| III層 暗褐色 (10YR3/4) 細砂層 | As-C (II層より粒度は大きい) を混入する砂質土層。 |
| IV層 暗褐色 (7.5YR3/4) 細砂層 | 總社砂層起因の砂質土ブロック混入する。 |

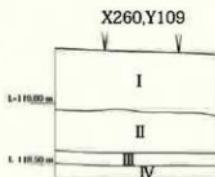


Fig. 31 元總社蒼海遺跡群 (73)
基本層序

3 遺構と遺物

A-1号道路状遺構 (Fig.31、PL. 8)

位置 X259～261、Y108-109グリッド 主軸方向 N 116° E 形状等 長さ9.20m 最大幅70cm 重複 I-1と重複しI-1より古い。 出土遺物 なし 時期 不明

I-1号井戸跡 (Fig.31、PL. 8)

位置 X261、Y109 重複 A-1と重複しA-1より新しい。 出土遺物 なし 時期 近現代

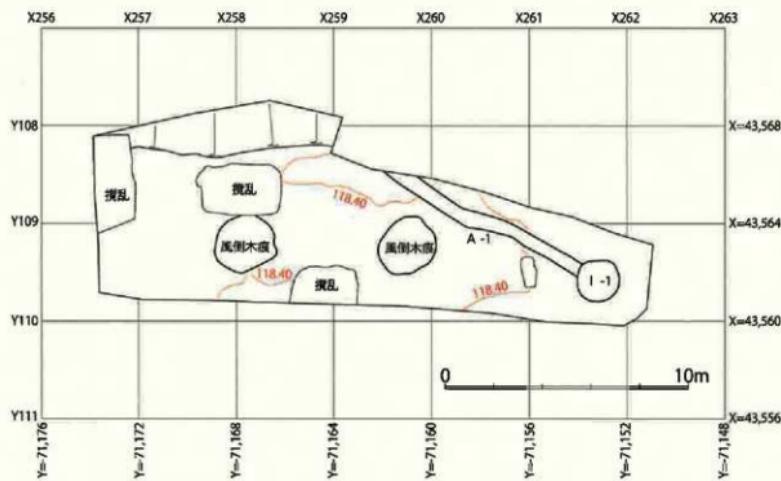


Fig. 32 元總社蒼海遺跡群 (73) 調査区全体図



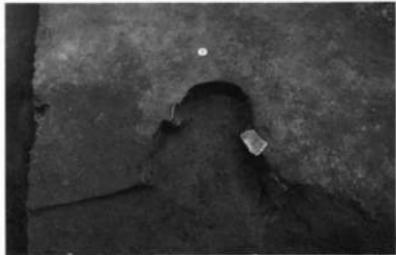
元總社蒼海遺跡群（61）調査区全景（西から）



元總社蒼海遺跡群（61）調査区全景（西から）



元總社蒼海遺跡群（61）調査区全景（北から）



元總社舊海遺跡群（61）H-1号住居跡（西から）



元總社舊海遺跡群（61）H-2号住居跡（北から）



元總社舊海遺跡群（61）H-3号住居跡（西から）



元總社舊海遺跡群（61）H-3号住居跡・竈（西から）



元總社舊海遺跡群（61）H-4号住居跡（西から）



元總社舊海遺跡群（61）H-4号住居跡・竈



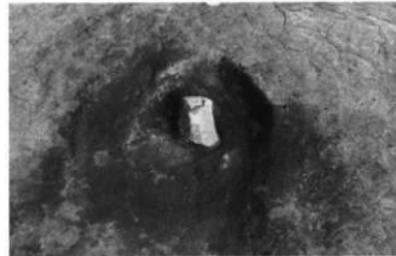
元總社舊海遺跡群（61）H-5号住居跡・竈



元總社舊海遺跡群（61）H-5・7・8号住居跡（西から）



元總社舊海遺跡群（61）H-7号住居跡・竈



元總社舊海遺跡群（61）H-9号住居跡・竈



元總社舊海遺跡群 (61) H-10号住居跡



元總社舊海遺跡群 (61) H-10号住居跡・竈



元總社舊海遺跡群 (61) H-11号住居跡 (西から)



元總社舊海遺跡群 (61) H-11号住居跡・竈



元總社舊海遺跡群 (61) H-12号住居跡 (西から)



元總社舊海遺跡群 (61) H-13号住居跡 (西から)



元總社舊海遺跡群 (61) H-14・15号住居跡



元總社舊海遺跡群 (61) H-16号住居跡 (東から)



元總社舊海遺跡群（61）H-18号住居跡（東から）



元總社舊海遺跡群（61）H-19号住居跡（南から）



元總社舊海遺跡群（61）H-20号住居跡（西から）



元總社舊海遺跡群（61）H-21号住居跡（西から）



元總社舊海遺跡群（61）H-21号住居跡・竈



H-21号住居跡遺物出土状況



元總社舊海遺跡群（61）H-22号住居跡



元總社舊海遺跡群（61）H-23・24号住居跡



元總社舊海遺跡群（61）C-1号方形周溝墓（東から）



C-1号方形周溝墓遺物出土狀況



元總社舊海遺跡群（61）W-1号溝跡（南部）



元總社舊海遺跡群（61）W-1号溝跡（北部）



元總社舊海遺跡群（61）W-2号溝跡（東から）



元總社舊海遺跡群（61）W-2号溝跡土層堆積狀況



元總社舊海遺跡群（61）T-1号竪穴状遺構



元總社舊海遺跡群（61）T-2～4号竪穴状遺構



元總社舊海遺跡群（61）T-5号竪穴状遺構



元總社舊海遺跡群（61）T-6号竪穴状遺構



元總社舊海遺跡群（61）D-1号土坑



元總社舊海遺跡群（61）D-2号土坑



元總社舊海遺跡群（61）D-3号土坑



元總社舊海遺跡群（61）D-5号土坑



元總社舊海遺跡群（61）D-6号土坑



元總社舊海遺跡群（61）I-1号井戸跡



元總社舊海遺跡群（72）H-1号住居跡



元總社舊海遺跡群（73）調査区全景（東から）



繩文土器・石器、弥生土器



4(H-3)



19(H-4)



20(H-4)



6(H-3)



21(H-4)



22(H-4)



26(H-4)



24(H-4)



27(H-4)

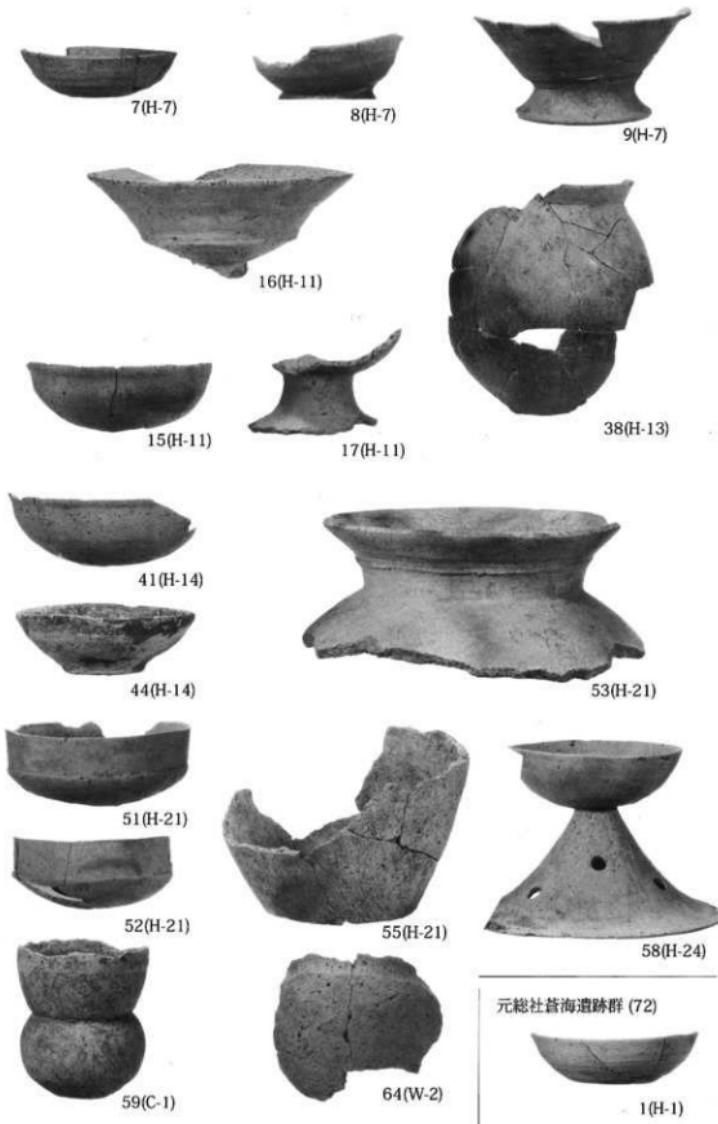


25(H-4)



28(H-4)

元総社苔海遺跡群 (61) 出土遺物 (1)



元總社舊海遺跡群 (72)

抄 錄

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグン (56)、(61)、(72)、(73)
書 名	元總社蒼海遺跡群 (56)、(61)、(72)、(73)
副 書 名	前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリ－ズ名	
シリ－ズ番号	
編 著 者 名	藤坂和延
編 集 機 関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2014年3月30日

フ リ ガ ナ 所収遺跡名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元總社蒼海遺跡群 (56)	前橋市元總社町	10201	23A155	36°23'36"	139°02'17"	20130910 20131210	26	前橋都市計画事業元總社蒼海上地区画整理事業
元總社蒼海遺跡群 (61)	前橋市元總社町	10201	23A160	36°23'36"	139°02'15"	20130910 20131210	616	
元總社蒼海遺跡群 (72)	前橋市元總社町	10201	23A171	36°23'39"	139°02'10"	20130910 20131210	43	
元總社蒼海遺跡群 (73)	前橋市元總社町	10201	23A172	36°23'35"	139°02'12"	20130910 20131210	136m ²	

所 収 遺 跡 名	種 别	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
元總社蒼海遺跡群 (56)	集落跡	古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡3軒	土師器、須恵器	
元總社蒼海遺跡群 (61)	集落跡	古墳～奈良・平安時代 中近世 時期不明	竪穴住居跡21軒、竪穴状遺構6基、方形周溝墓1基、溝塚2条 墓塚1基、井戸1基 土坑5基	土師器、須恵器、石製品、瓦鉢器 錢貨、陶器	
元總社蒼海遺跡群 (72)	集落跡	平安時代	竪穴住居跡1軒 溝跡1条	土師器、須恵器、瓦	
元總社蒼海遺跡群 (73)		時期不明	遺状遺構1条		

**元総社蒼海遺跡群 (56)
元総社蒼海遺跡群 (61)
元総社蒼海遺跡群 (72)
元総社蒼海遺跡群 (73)**

2014年3月28日 印刷
2014年3月31日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会
前橋市三保町二丁目10-2
印刷 初日印刷工業株式会社
